



2022

CHIBA UNIVERSITY



はじめに  
INTRODUCTION

千葉大学海外派遣留学プログラムは、千葉大学が大学間学生交流協定を締結している海外の大学に、協定内容に基づき、派遣留学生として留学できる制度です。なお、派遣留学は語学留学とは異なり、主として自分の専門または興味のある分野に沿った留学先・学部・科目を選び、現地の学部生等と同じように授業・試験を受けながら、現地の学生の一人として学びを深める留学となります。

本レポートは、2021年秋（2021年7月～9月）および2022年春（2022年1月～2月）に留学を開始した学生による報告を記録したものです。1学期間または1年間の留学生生活を振り返り、コロナ禍や現在の世界情勢下での留学準備において大変だったこと、留学先大学での学び、留学中の1日のスケジュール等を記載してもらいました。  
これから千葉大学海外派遣留学プログラムに参加し留学したいと考えている方はぜひ、本レポートを自身の留学計画立案・作成の検討にお役立てください。

# C

## 目次 CONTENTS

09	UNIVERSITY OF WISCONSIN-MILWAUKEE Milwaukee, United States	教育学部 小学校教員養成課程ものづくり・技術選修 4年 小松祥也
10	CONCORDIA UNIVERSITY WISCONSIN Mequon, United States	法政経学部 政治学・政策学コース 3年 小竹陸
11	UNIVERSITY OF CINCINNATI Cincinnati, United States	国際教養学部 国際教養学科現代日本学メジャー 3年 唐津瞭
12	UNIVERSITY OF ILLINOIS CHICAGO Chicago, United States	法政経学部 法政経学科経済学コース 4年 深谷遥希
13	YORK ST JOHN UNIVERSITY York, United Kingdom	国際教養学部 国際教養学科グローバルスタディーズメジャー 4年 西沢美樹
14	NORTHUMBRIA UNIVERSITY Newcastle upon Tyne, United Kingdom	国際教養学部 国際教養学科グローバルスタディーズメジャー 4年 白石祐里菜
15	GLASGOW SCHOOL OF ART/ UNIVERSITY OF CINCINNATI Glasgow, United Kingdom/ Cincinnati, United States	融合理工学府 創成工学専攻デザインコース 2年 吉田みずき
16	LEIPZIG UNIVERSITY Leipzig, Germany	国際教養学部 国際教養学科現代日本学メジャー 4年 岡田隆平
17	POLYTECHNIC UNIVERSITY OF MILAN/ TH KÖLN- TECHNOLOGY, ARTS, SCIENCES Milan, Italy/ Cologne, Germany	融合理工学府 創成工学専攻デザインコース 2年 馬悦
18	UNIVERSITY OF JYVASKYLA Jyvaskyla, Finland	国際教養学部 国際教養学科グローバルスタディーズメジャー 4年 庄田愛
19	UNIVERSITY OF JYVASKYLA Jyvaskyla, Finland	国際教養学部 国際教養学科総合科学メジャー 3年 行徳玲
20	UNIVERSITY OF EASTERN FINLAND Joensuu, Finland	教育学部 学校教員養成課程英語教育コース 4年 鶴田実柚
21	UNIVERSITY OF LAPLAND Rovaniemi, Finland	融合理工学府 創成工学専攻デザインコース 2年 田代遥
22	LINKÖPING UNIVERSITY Linköping, Sweden	国際教養学部 国際教養学科グローバルスタディーズメジャー 3年 三田莉加
23	LINKÖPING UNIVERSITY Linköping, Sweden	工学部 総合工学科医工学コース 3年 成田理那
24	UNIVERSITY OF SALAMANCA Salamanca, Spain	文学部 人文学科国際言語文化学コース 4年 平野真結花
25	UNIVERSITY OF SALAMANCA Salamanca, Spain	文学部 人文学科国際言語文化学コース 4年 星野千怜
26	UNIVERSITY OF SALAMANCA Salamanca, Spain	文学部 人文学科国際言語文化学コース 4年 熊川和香葉
27	UNIVERSITY OF THE BASQUE COUNTRY Basque, Spain	文学部 人文学科国際言語文化学コース 4年 川瀬登子
28	IADE UNIVERSITY/ POLYTECHNIC UNIVERSITY OF MILAN Lisbon, Portugal/ Milan, Italy	融合理工学府 創成工学専攻デザインコース 1年 丸山万莉絵
29	UNIVERSITY OF OSTRAVA Ostrava, Czech Republic	国際教養学部 国際教養学科現代日本学メジャー 4年 西村泉美

30	YONSEI UNIVERSITY Seoul, Republic of Korea	融合理工学府 創成工学専攻デザインコース 1年 千田桃歌
31	CHIANG MAI UNIVERSITY Chiang Mai, Thailand	国際教養学部 国際教養学科現代日本学メジャー 4年 宮原佑季
32	UNIVERSITY PUTRA MALAYSIA Selangor, Malaysia	国際教養学部 国際教養学科グローバルスタディーズメジャー 3年 小幡理子
33	JOMO KENYATTA UNIVERSITY OF AGRICULTURE AND TECHNOLOGY Juja, Kenya	国際教養学部 国際教養学科グローバルスタディーズメジャー 4年 毛利麻衣

# W

(コロナ禍や現在の世界情勢下での留学準備において大変だったことや、今後留学を考えている学生に留学準備段階でのアドバイスがあれば教えてください。) コロナ下での留学で大変だったことは、準備するもの多さでした。渡航前に、留学するにあたって重要なこと、大変なことは準備をどれだけするかだとよく言われました。実際に、千葉大学や渡航先の大学との手続き、英語や自分の学業の準備、必要な書類や持っていくものの準備などただでさえやらなければいけないことが多いなかで、ワクチンの接種や、渡航先のコロナの状況なども並行して準備しなければならず、心が折れそうになることは多々ありました。また、僕が準備していた時には、コロナ次第ではいけなくなるかもしれないような状態だったので、いけるかどうか分からない状態で準備を進めていくことは大変でした。準備段階では、自分の検索だけだと分かりにくいことも多いかと思うので、留学生課の方や渡航先のサポーターの方に相談しながら進めていくことで効率的に進めていくことができると思います。

(留学先大学の良い点や改善してほしい点について教えてください。) 施設が充実している点や、基本的に大学周辺で生活できることや勉強できる場所が多いことはよかったです。改善してほしい点としては、食費が想像以上にかかることでした。僕の住んでいた寮は、部屋にキッチンがないためカフェテリアで食事をとるのですが、その食事が思ったよりも高いことがあるので、やりくりが大変でした。他の寮ではキッチンが付いているところもあるため、そちらのほうがよ

かったのかもしれないです。また、長期休みには学生のほとんどが帰省するため、カフェテリア含めほとんどの施設が休みになってしまうことも、留学生の身としては困りました。



(留学先での学びについて、授業内容とともに具体的に説明してください。) 私は教育の授業と英語の授業の大きく分けて二種類の授業を取っていました。英語の授業では、Speaking と Reading の授業を取っていましたが、他の正規留学生がとるのと同じ授業で、Speaking ではプレゼンテーションのやり方、Reading では大学のレポートの書き方などを学びました。この授業の中で、英語をアウトプットする機会が多くあるため、英語力が向上したように感じます。教育の授業では、教育の基本的授業や、コミュニティ教育の授業を取っていました。アメリカでの教育への考え方や、文化の上での教育を学ぶことができ、自分の中での価値観が変わったように感じます。また、授業の一環として地元の小学校を週に一回見学することができ、実際の教育現場を見ることができ多くの学びがありました。日本の授業と違う点としては3つほど感じるがありました。一つ目は、週に2〜3コマ行われる授業が多いということです。一つの授業が一日おきにあたり、一日に3コマ分行われたりするなど、一つの授業当たりのコマ数が多いため、スケジュールを立てるのが難しく、また、一タームでとることのできる授業は5つくらいでした。2つ目は、課題が多いということです。次の授業までに、教科書を一章分読み、その感想をページ分くらい書くというような課題が毎回出る授業が多く、英語に慣れていない状態では読むのにも書くのにも時間がかかってしまうため大変でした。3つ目は教授との距離が近いということです。わからないことがあった



り、課題が追いつけなかったりするときには教授にメールや直接相談することで優しく丁寧に対応してくれる先生ばかりで、またその接し方もとてもフレンドリーなため、安心して相談することができました。

(留学中の1日のスケジュールについて教えてください。) 授業のある日は、朝8時頃に起き、部屋の冷蔵庫に入れているチーズとハムをパンにはさまいスターで温め食べ授業の準備をし、スケボーで授業に向かいました。(アメリカの歩道は日本よりもスムーズで、学内ではスケボーで移動するのが便利でした。) 昼は、寮に戻りカフェテリアで食事をとり、午後に授業があるときには午後の授業に向かいました。その後は、課題があるときには図書館で課題をし、なければジムや体育館で体を動かしたり部屋で休んだりしていました。夜は、カフェテリアで夕食を食べ、その後、寮の勉強スペースや部屋で課題をしたり、Netflix で英語で映画を見たり、友達と出かけたりしました。授業がない日は、決まったスケジュールはありませんでしたが、友達と観光地やイベントに出かけたり、買い物に行き必要なものやお土産をそろえたり、カフェで勉強したりしていました。また、体調を崩さないように、ジムに行くようには心がけていました。

(留学経験を、就職活動を含めこの先どのように活かしていきたいですか。) 留学での経験で得た力としては、行動力や計画性があると考えています。留学中は、友達作りやイベントごとなど積極的に行動しなければ得られなかった経験が多いと感じているため、その時のような行動力は今後も活かせると思います。また、渡航準備や留学中の勉強と行動など、計画してやらなければならないことも多く、様々なことを考え準備していく計画性も身についたと思います。また、英語力についても、留学前は、ぎりぎり留学が許されるレベルでしたが、留学後は日常会話レベルならできると自負しているためそれも武器にしていきたいです。



(今後の派遣留学を希望する学生にメッセージをお願いします。) 留学はわからないことが多く、不安になることも多いと思いますが、積極的に挑戦してみればうまくいくことが多いと思います。自分のやってみたいことを思い描き、準備を進め、積極的に行動することで充実した留学にすることができるし身につく力も大きいはずで、ぜひ楽しんでください!

(留学先大学の特徴や留学生へのサポート体制等について教えてください。) 私の留学していたウィスコンシン大学ミルウォーキー校は様々な学部がありました。私の学んでいた教育から、語学、経済、映画や芸術など様々な授業があり、いろいろな人と関わることができてきました。アメリカの大学では普通なのかもしませんが、施設が充実していました。私の住んでいた寮は大学内にあり、また、大学からのバス圏内に二つの寮がありました。寮の中には食堂やコンビニ、洗濯機や勉強スペースがあり、普段の生活には困りませんでした。また、ジムや図書館、体育館も大学内にあり日常も充実して過ごすことができました。留学生へのサポーターとしては、留学生サポートセンターのようなところがあり、いつでも相談でき、またイベントもあるため、留学生同士で交流することもできました。留学生向けの英語の授業も充実しており、英語の能力も伸ばすことができました。

(留学先大学の特徴や留学生へのサポート体制等について教えてください。) 現地の大学は、①クリスチャン・カレッジであること、②都市部から離れた位置にあることの2点が大きな特徴である。学内に大きなチャペルがあり、毎朝学生が集まって合唱していた。また徒歩で近隣のスーパーまで行けないので、重たいバックパックの目的の前のミシガン湖があり、晴れている日は絶景である。現地の大学には留学生課があり、いつでも気軽に留学の相談にのってくれる。また、留学生課主催で学内イベントを多数行っており、積極的に参加すれば現地の学生や他の留学生と交流出来る機会を増やせると思う。個人的には、インド料理や韓国料理イベントが特に楽しかった。その国の留学生が、自ら材料を用意して作ってくれるので、よりリアルなインド料理・韓国料理を楽しむことが出来た。

# C

(コロナ禍や現在の世界情勢下での留学準備において大変だったことや、今後留学を考えている学生に留学準備段階でのアドバイスがあれば教えてください。) 1つ目は、ビザの申請に思った以上に時間がかかってしまったことだ。2週間から1ヶ月ほどで終わるというネットの情報を鵜呑みにし、ビザを準備し始めるのが遅かったため、渡航スケジュールを後ろ倒ししなければならなかった。交換留学のビザは、発行までに様々なステップを踏む必要があるから、余裕を持って、準備をすることをすすめる。2つ目は、銀行から留学費用を借りることに時間がかかってしまったことだ。私は千葉銀行の海外留学ローンを利用して留学費用を作った。その際、留学先大学への留学を証明する書類や留学にかかる費用を証明する書類など、お金を借りるための必要書類を集めることにとても時間がかかった。コロナウイルス感染症の影響で留学の費用や準備にかかる時間も大きく変化した。インターネットで情報収集したうえで、早め早めで動き始め、余裕を持って準備を進めることをすすめる。

(留学先大学の良い点や改善してほしい点について教えてください。) コンパクトな大学なので、授業教室の移動を全て室内で行えたことが良い点である。私の留学先は、冬は雪が降って非常に寒いので、室内の移動だけで学内の施設をまわれることは非常にありがたかった。改善してほしい点は、学内カフェの食事だ。私の留学先の学食は例えば宗教上の配慮が少なく、それが原因で利用出来なかった学生もいた。加えて、アジア料理が提供されることはほとんどなかったため、食事がバラエティに富んでいればとても良かったと考える。



(留学先での学びについて、授業内容とともに具体的に説明してください。) 前提として、私の大学の授業は基本的に1授業3単位なので、55分の授業が週3回または75分の授業が週2回行われている。春・秋学期の2セメスター制で、1セメスターあたり、12-18単位ほど取得する学生が多かったと思う。夏や冬にも授業が開講されており、一部の学部の学生や早期卒業を目指す学生は授業を受けていた。私は法政経学部であったので、ビジネス科目を中心に学んだ。ウィスコンシン州最大のビジネススクールであったため、授業の数は豊富で教授1人あたりの学生数が少なく、教授との距離感が近い。私は、Financial AccountingやEcological Economicsなどの授業を取っていたが、授業や課題で分からなかった点はよく教授に質問に行っていた。また提出物に関しても、すぐに評価+フィードバックをくれるため、教授が学生に割いてくれる時間が多いと感じた。授業内容は科目ごとに異なるが、前回出された課題の内容について、授業内でのディスカッションやグループワークを通じて、アウトプットし理解を深めるということが基本的な構成である。例えば、Ecological Economicsは事前に課題図書を4-5冊程度示され、その課題図書に沿ったテーマで毎回議論をしていく。そのため、課題図書の内容を読み、自分の意見を発表する準備をすることが毎回の授業で必要だった。一方で、Financial Accountingのような知識詰め込みのクラスは、授業は一方向的講義形式で、

(留学経験を、就職活動を含めこの先どのように活かしていきたいですか。) 言語や文化の異なる人々を巻き込み、目標や目的に対して粘り強く試行錯誤していく力を留学で養うことが出来た。この力をグローバルに働く中で活かしていきたい。現地の大学の授業では、知識の詰め込みだけでなく、ディスカッションやグループワークを通じて、論理的に自分の意見を述べ周囲を巻き込んでいく力が重要だった。この力はこういった進路に進むにしろ、絶対に活きたと思うので、留学を通じて培うことができて良かった。



(今後の派遣留学を希望する学生にメッセージをお願いします。) 海外の大学での勉強は大変なことも多いですが、それを乗り越えることで自身を成長させ、その後のキャリア観を広



課題は授業内容の演習のような授業構成になっている。ちなみにFinancial Accountingは、課題の量が特に多くなり大変だった。しかも、ただ課題をこなせば良いのでなく、中間試験や期末試験では教材の持ち込みが許されていないので、何度も教材を復習して膨大な知識を覚える必要があった。勉強は大変だったが、同時に楽しかったし、時に周囲の学生と一緒に勉強して授業内容を深め、全体的に自分が納得できる成績を取得できたことは良かったと思う。

(留学中の1日のスケジュールについて教えてください。) モデル的な1日 9:00-9:20 起床・準備 9:30-10:00 学内の食堂で朝食 10:05-12:00 授業 x 2 12:00-13:00 学内の食堂で友人と昼食 13:05-14:00 授業 14:00-17:00 図書館で課題 17:00-18:30 学内の食堂で友人と夕食 18:30-22:00 ジムで友人と筋トレ/体育館でバスケ 21:00-26:00 図書館・自室で課題 / 自由時間 ジムは週6で通っていた。勉強の気分転換になるうえ、現地の学生との交流の場であるので、積極的に通うことをお勧めする。授業がない日は無かったが、早く終わるときは友人の車で外出してピュッフェを食べに行ったり、夜中にボウリングに行ったりしていた。金曜日はミルウォーキーにある留学生ハウスに行き、現地に住む他国からの留学生と交流する時もあった。土日は日によって変わるが、試験期間は図書館に籠って勉強していた。冬休み期間は授業がなかったので、友人と一緒にスーパーに買い出しに行って料理を作ったり、都市部まで行ってショッピングしたり、地元の有名なハンバーガー屋やアイスクリーム屋をめぐるりとアクティブに過ごしていた。

げること繋がると思います。現地では少しでも関心があることに恐れることなくチャレンジし、よりよい留学生活を送ってください!

# C

(コロナ禍や現在の世界情勢下での留学準備において大変だったことや、今後留学を考えている学生に留学準備段階でのアドバイスがあれば教えてください。) 渡航先の国に求められているコロナの陰性証明書準備・提出するにあたり、求められている条件を満たしている医療機関を自分で探すことが大変でした。証明書込みでは値段もそれなりに張るため、なるべく安価で済ませられるようにもしました。また、コロナワクチン以外にも求められている予防接種があり、それらに関しては留学生課も認知していなかったようだったため、費用の面でも病院に赴いてワクチンを接種したという点でも負担が大きかったです。アドバイスとしては、渡航前では難しいかもしれないが、その国に実際に渡航した人から受診した医療機関などの情報を仕入れることや、渡航時に提出した書類、隔離の期間やワクチン接種回数などについて尋ねることが一番早いと感じました。

(留学先大学の良い点や改善してほしい点について教えてください。) 良い点については、先ほど書きましたが施設の利便性にあると思います。体育館やジム、フットボールコートなどが解放されていたため、私もよくそれらを利用して運動をしたり友人と遊んだりしていました。改善してほしい点については、住居の斡旋や新型コロナ関連の検査に関するサポートが薄かったことです。帰国前に検体や検査方法などのRequirementを満たした陰性証明書の提出が日本政府から求められていたのですが、学内の衛生関連の施設に問い合わせてもらい直しにされた思い出があります。



(留学先での学びについて、授業内容とともに具体的に説明してください。) 私が専攻していたのはコミュニケーションだったため、Fall Semesterではコミュニケーションの授業を3つとESL(英語を勉強する授業)を2つとっていました(1つの授業が3単位分なので、15単位分)。コミュニケーションの授業に関しては、レベルこそ学部3,4年生向けのものもあったものの、基礎的なコミュニケーションについての理論や、その応用について学びました。1つの授業でグループワークがあり、そこでは自分達の班で選んだ映画の中でどのようなグループコミュニケーションの理論が使用されているか分析しました。これらの授業からはアメリカの大学の授業がどのような形態であるのか、アメリカの学生がどのような態度で受講しているのかということについても学びました。Spring Semesterでは、さほど学びが感じられなかったESLの受講をやめて、コミュニケーションの授業を4つ履修しました。ここでは、大学周辺地域の麻薬使用問題に対するアプローチ方法を、課題解決型コミュニケーションのフレームワークに落とし込んで議論をする授業や、教科書で紹介されたコミュニケーションとポピュラーカルチャーに関する事例を、自分が選んだ映画や音楽、書籍などの中に当てはめて論じる授業などがありました。英語学習者としての側面もあったため、負担はなかなか大きかったのですが、時間を割いてそれなりに良い評定をもらえたことが印象的でした。総じて、アメリカの学生は日本の学生と比較して授業内での発言非常に積極的で、授業では教授も含めた全員がユーマラスであったように感じます。冗談などを交えながら授業をしたり、やることが終われば授業時間内でも切り上げたりするようなこともあり、いかにもアメリカの大学という感じが

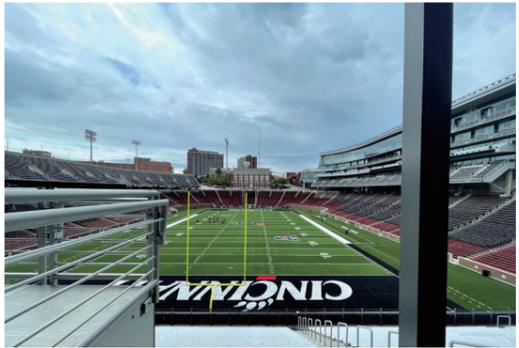
(留学経験を、就職活動を含めこの先どのように活かしていきたいですか。) 現在進行形になってしまっていますが、帰国後は国際教養学部のStudent SULAという、学生のピアアシスタントのような役割に就いて、派遣留学などを考えている学生に対してアドバイスをしています。就職活動では留学に向けての渡航準備をアピールしたり、エントリーシートでTOEICのスコアなどを書いたりすることで、留学先全体を通して得たものを活かしています。



(今後の派遣留学を希望する学生にメッセージをお願いします。) 準備するのは何事も早い方がいいと思います。また、留学序盤は言語が通じなかったり、友人ができづらかったりとうまくいかないこともあるかもしれませんが、誰にで

# C

(留学先大学の特徴や留学生へのサポート体制等について教えてください。) 大学の特徴としては留学生を含めた全体的な学生の数が多く、そのためキャンパスも広いです。施設としては清潔感があり、また学生に対して非常に開かれていて、空いている時間はサッカー場やテニスコート、ジムや図書館などの施設も学生に対して夜遅くまで開かれています。また、学生に対して非常に印象的でした。留学先大学の特徴や留学生へのサポート体制について、履修登録や授業について、履修申請など分野の違わずでも比較的協力的な対応をしてくれていたと思います。人を探している留学初期などはそれらに頼る出ずるのもいいと思います。



しました。全体を通してはコミュニケーションに関する知識や英語力の他にも、自身の授業や学習に対する態度について見直すいい機会になったのではないかと感じています。ただ、英語力があればもっと積極的に授業やディスカッションに貢献できていたのではないかと、という心残りもあります。

(留学中の1日のスケジュールについて教えてください。) <授業のある平日> 8:30 起床、身支度 9:10 家を出る 9:30 授業 11:00 授業 12:30 学内のカフェで昼食 14:00 授業 15:30 休憩 17:00 図書館で課題など 20:00 学内のジムでトレーニング 21:30 自宅で夕食 22:30 自由時間 25:00 就寝 <授業がない休日> 10:00 起床、自由時間 12:00 昼食、自由時間、課題など 16:00 友人やルームメイトと予定がある場合は出かける、なければ自由時間 20:00 パーティーに友人と出かける 帰宅時間はまばらでおおよそ翌朝3時から5時の間 基本的に平日に遊びに行くことはあまりなく、金曜日や土曜日の夜にパーティーに行ったり休日の日中に買い物やその他の遊びに出かけたりすることが多かったです。課題については平日に基本的にやるようにしていたので、休日はそれほどやっていませんでした。テスト前などは平日の22時くらいまで図書館に籠るようなことが多かったです。その代わりに休日は休息をとるようにしていました。

もあることだと思うので耐えましょう。すぐに楽しいと思える日が来ます。応援しています!

(留学先大学の特徴や留学生へのサポート体制等について教えてください。) 大学の特徴としては留学生を含めた全体的な学生の数が多く、そのためキャンパスも広いです。施設としては清潔感があり、また学生に対して非常に開かれていて、空いている時間はサッカー場やテニスコート、ジムや図書館などの施設も学生に対して夜遅くまで開かれています。また、学生に対して非常に印象的でした。留学先大学の特徴や留学生へのサポート体制について、履修登録や授業について、履修申請など分野の違わずでも比較的協力的な対応をしてくれていたと思います。人を探している留学初期などはそれらに頼る出ずるのもいいと思います。

(留学先大学の特徴や留学生へのサポート体制等について教えてください。) サポートに関しては特にはありません。強いて言えば、留学の最初の1週間で交換留学生だけのオリエンテーションがあるのですが、そこで留学生の友達を作らねばならないと思います。実際に私も授業でペアワークしたりした人と仲良くなること出来ました。大学の特徴としては図書館が意外と早く閉まります。遅くまで勉強したいときは自分で場所を探さなければなりません。教授は基本的に優しいので授業で困ったらオフィスアワーの時間に質問するといいです。



(留学先での学びについて、授業内容とともに具体的に説明してください。) 留学先では前期後期合わせて、社会学2つと経済学6つの授業を履修しました。すべての授業についてここに記載すると長くなってしまいますので、いくつかの授業について説明します。1つ目は不動産の価値を査定し、法律を学ぶ経済学の授業です。前期に履修をしましたが、教授がインド人の方でした。アクセントがあったため、正直苦戦しました。しかし、それと同時にこの経験こそ多民族国家のアメリカらしさを体現していたと思います。教授が必ずネイティブとは限りません。この経験は、もし将来海外でビジネスをする際には役立つかと考えています。二つ目は後期に履修したアジア系アメリカ人の授業についてです。アジア系アメリカ人のクラスと言っても他の人種のことも含めて学習するような授業でした。少人数のグループワーク→クラス全体に共有という流れでした。予習が大前提でしたし、グループワークで常に積極的に参加することが求められていました。とてもハードな授業でしたが、相手の意見をしっかり聞き、自分の意見を論理立てて説明する訓練になりました。また、その授業では最終週にグループプレゼンをしました。英語でのプレゼンは初めてだったので、緊張しましたがやり終えた後には達成感を得られました。

(留学経験を、就職活動を含めこの先どのように活かしていきたいですか。) 就職活動のために留学してはいないので、そこまで活かせるかはわかりません。ただ、異文化交流をしてきたという経験やグローバルに働きたいという意思の裏付けには効果的だと思います。また就活ではグループで何かを成し遂げた経験が求められます。基本的には留学は個人での行動なので、アピールするのは難しいです。もし留学を就活で使いたいなら、現地の部活やサークルに入り、チームで何かを成し遂げることが重要です。あとは滞在中に長期インターンをするのも効果的です。海外の大学での勉強は大変なことも多いですが、それを乗り越えることで自身を成長させ、その後のキャリア観を広げることに繋がると思います。現地では少しでも関心があることに恐れることなくチャレンジし、よりよい留学生活を送ってください!



(コロナ禍や現在の世界情勢下での留学準備において大変だったことや、今後留学を考えている学生に留学準備段階でのアドバイスがあれば教えてください。) 目的と目標を明確にすることです。漠然と留学するのはもったいないので何をしたいかを渡航前に考えるといいです。あとは、リスニングの勉強はした方がいいです。TOEICやTOEFLのリスニングの倍以上の速さでネイティブは話します。当然スラングも多いです。具体的には海外のドラマを字幕なしで見られるぐらいにしておくとういと思います。スピーキングは現地についてから1カ月ぐらいで何とかなります。また準備段階で大変だったことは留学の安全性を示す書類を複数示すことです。期末考査時期と被っていましたし、何より留学生課のチェックがとても厳しかったことが印象的です。現地でのコロナについてはそんなに敏感にならなくて大丈夫だと思います。実際、海外はもうマスクをしていない地域が多いと思います。

(留学先大学の良い点や改善してほしい点について教えてください。) 多様性があることがよい点です。大学にはアメリカ人だけではなく、南米の生徒や他の国のアジアの人がいます。大学の中で様々な言語が聞けるのが特徴の一つです。改善してほしい所として、古い建物が多いことです。図書館や、私が実際に生活していた寮はかなり古かったです。中には最新の寮もありますが、そういうところは総じて価格が高いです。



(留学中の1日のスケジュールについて教えてください。) 授業のある日  
07:30 起床 08:30-09:30 授業 10:00-13:00 図書館で勉強  
13:00-14:00 昼食 14:30-16:00 授業 16:30-19:00 図書館で勉強  
19:00-20:30 夜ご飯、風呂 20:30-21:30 勉強 21:30-0:30 自由時間  
週末 08:30 起床 09:30-13:00 勉強 13:00-14:00 昼食  
14:00-17:00 勉強 17:00-友達と遊ぶ  
試験前でも授業のある日とあまり生活のリズムは変えませんでした。普段から勉強していたので試験前だからといって変に追い込んだりはしませんでした。

(今後の派遣留学を希望する学生にメッセージをお願いします。) 留学は貴重な経験です。行くならしっかり目的や目標を考えた上で行くことをお勧めします。あとはなるべく日本人以外と関わる環境を作ることが大事です。そこを意識してみてください。

# Y

(コロナ禍や現在の世界情勢下での留学準備において大変だったことや、今後留学を考えている学生に留学準備段階でのアドバイスがあれば教えてください)

【大変だったこと】  
状況が日々変わる中での情報収集に苦労しました。特に当時はまだコロナ禍の留学の前例が無かったので、国内での準備から現地での対応・危機管理まで自分で情報を探さなければならなかったためです。  
【アドバイス】  
色々なネットワークを作って活かせると良いと思います。私は学内外で同時期に留学する学生と繋がって、お互いに情報共有や相談をしていました。また留学先に知人がいれば現地の情報を聞けるので尚良いと思います(私は English School の LEX Program で知り合った学生に現地の生活情報等を教えてもらっていました)。わからないことは曖昧なままにせず、不安なこともためらわずに聞く、周りをしっかり頼る

(留学先大学の良い点や改善してほしい点について教えてください。)

【良い点】  
留学生のサポート体制が厚い点。教職員・学生どちらも親切な方が多く、生活面でも授業でも親身に対応してくれたのでありがたかったです。図書館等の学内設備も充実しており、立地も良いので、学習生活環境ともに整っていたと思います。



(留学先での学びについて、授業内容とともに具体的に説明してください。) 私は計6つの授業を履修しました。前期は主に観光やビジネス系、後期は環境系の科目を多めに履修しました。ヨークセントジョン大学の留学生は学部に関係なく科目を選ぶことができました。

【Responsible business】企業の社会的責任について理論や実例を用いながら学びました。今後の企業のあり方についてイギリスの視点から学ぶのは興味深く、またこの授業は「根拠に基づく批判的な視点」を重視していた、授業外でも必要な思考力も学ぶことができました。【Marketing】マーケティングの基礎的な内容を学びました。最後は新しいプロダクトを提案するグループ発表で、他の学生の意見やグループへ貢献する姿勢が良い刺激になりました。【Tourism Insight & Industry】観光業の現状やトレンドを、事例をふまえて多角的に学びました。観光が産業として地域や人、経済にどのような影響を与えてきたのか、作る側の視点で学ぶことができ新鮮でした。【Nature conservation】環境保全について学び、実際に授業でも保護区や動物園へフィールドワークに行きました。最終課題が自分で決めたテーマを基にインタビューを実施しポスター発表をするというもので、自分で仮説を立て、現地で一次情報を集めて検証する体験は貴重な学びになりました。【Sustainability】環境問題の様々なテーマを、事例を取り上げながら学びました。ディスカッションの時間が多く、現地の学生の考えや価値観に沢山ふれることができました。【Creating business ideas and opportunities】事業づくりを学び、最後は実際に自分で新規事業の提案もしました。クラスには実際に起業を志す学生も多く、彼らとの話から毎時間刺激を受けました。

(留学経験を、就職活動を含めこの先どのように活かしていきたいですか。) 留学中の様々な経験や出会いから「当たり前を疑う視点」を学ぶことができたので、仕事においても生活においても、視野を広く持ち状況を俯瞰する視点を大切にしていきたいです。また個人的には英語を使うことのハードルが下がったのも、留学の大きな収穫でした。今後仕事で海外のスタッフと一緒に仕事をすることも多くあるので、国を越えたコミュニケーションを楽しむ気持ちも大切にしていきたいです。準備するのは何事も早い方がいいと思います。また、留学序盤は言語が通じなかったり、友人ができづらかったりとうまくいかないこともあるかもしれませんが、誰にでもあることだと思うので耐えましょう。すぐに楽しいと思える日が来ます。応援しています!



【改善点】  
特にありませんが、強いて言うなら寮の他のフラットのパーティが盛り上がりすぎて夜中まで音が止まないことが度々あったことです。(文化の違いで仕方ないかもしれませんが…)



うまく議論に参加できず苦労することもありましたが、現地の事例や視点を学び、また(時に助けてもらいながら)同年代の学生たちと一緒に学ぶことができたのは、様々な価値観にふれる貴重な機会になりました。

(留学中の1日のスケジュールについて教えてください。)  
【モデル的な1日】6時頃起床・朝食→2限(10:30-12:00)→昼食→4限(14:30-16:00)→買い物や友人との集まり→18-19時頃帰宅・夕食→課題や趣味等→24時頃就寝(授業は1日2コマ前後だったので、日中は大学で授業を受け、空コマは勉強したり友人と過ごしたりしていました。食事は自炊が多く、夜はよくフラットメイトとご飯を作っていました。)  
【授業が無い日】6-7時頃起床・朝食→ボランティア(10:00-13:00)→昼食・買い物など→帰宅・夕食→趣味等→24時頃就寝(私は Visit York という街の観光協会に週2回ほどボランティアをしていたので、授業の無い日はシフトを入れていました。家も大学も町の中心部に近かったので、よく町の散策もしていました。)  
【課題前】6-7時頃起床・朝食→図書館→昼休憩→図書館→夕食→図書館→帰宅・就寝(課題の前は朝から晩まで図書館に籠っていました。大学の図書館がクリスマス休暇などを除きほぼ毎日24時間利用できたので、大変ありがたかったです。)

(今後の派遣留学を希望する学生にメッセージをお願いします。) 留学はそれ自体が勇気のいる決断ですが、その一歩で得られるものは本当に大きいと思います。大体の不安は何とかなるので、ぜひチャンスを活かして自分がやりたいことに挑戦してみてください!応援しています!

(留学先大学の特徴や留学生へのサポート体制等について教えてください。) ヨークセントジョン大学の留学生サポートは手厚いと思います。学内に留学生支援のチーム(職員・学生どちらも所属)があり、現地到着時の送迎から履修を含む様々な手続きまで対応してくださいます。留学生間の距離が近く、私が履修した授業の教授は基本的に1対1で相談やキャリア交流イベントも定期的に開催してくださっていたので、交友関係を広げられる機会も沢山ありました。授業では学生と先生の距離が近く、私が履修した授業の教授は基本的に1対1で相談やキャリア交流イベントも定期的に開催してくださっていたので、交友関係を広げられる機会も沢山ありました。また留学のサポートクラス(自由参加・日常会話からアカデミックまで)も通年で開講してくださっているので、必要に応じて気軽に利用することができました。

(留学先大学の特徴や留学生へのサポート体制について教えてください。) ノーザンブリア大学は、比較的新しく、キャンパスは綺麗で近代的な雰囲気が漂います。日本人を含めアジア人は少ないですが、留学生自体は多く、交換留学で来ている学生よりも正規留学で来ている学生が多い印象です。また、留学生用ではありませんが、あらゆるトラブルに対応してくれる Ask4help というサポートがあり、私自身学生サポートの使い方や時間制の思わぬ様々な疑問に対応していただきました。さらに、大学のすぐ隣にはニューカッスル大学があり、こちらも留学生が多い大学のため街全体が留学生にとって過ごしやすい環境だと思います。学生が多いからか、ニューカッスルの街自体とても治安が良く、感覚的に日本と変わらないほど安全な街だと思います。

# N

(コロナ禍や現在の世界情勢下での留学準備において大変だったことや、今後留学を考えている学生に留学準備段階でのアドバイスがあれば教えてください。) コロナ禍での留学ということで、受け入れ可能な病院や感染した際の対応、そして到着後の隔離用ホテルなどを調べ、隔離中の食料確保や検査キットの受け取り方などを渡航前に関係各所に連絡する必要があり、事前準備には大変時間と労力を費やしました。このように留学準備は平時より一層大変でしたが、事前に多くのことを調べ、あらゆる可能性を考えておいたことで、留学中予測していなかった事態が起きたときにもスムーズに対応することができました。私の場合、扁桃炎により突然声が出なくなる緊急事態がありましたが、事前に医療制度の仕組みや保険でできることを調べていたため、病院で点滴を受け一晩で危機を乗り越えることができました。事前準備が一番大変ですが、留学を無事終える上で最も重要になることなので、念入りに行くことをお勧め

(留学先大学の良い点や改善してほしい点について教えてください。) ノーザンブリア大学の良い点は、学生同士の交流イベントが盛んで友人が作りやすいことです。毎週大学内にあるバーでカラオケパーティーがあったり、ニューカッスルの街を散策するイベントが開かれていたり、友達を作る機会が多くありました。特に、日本で言うところのサークルにあたる Society は、留学生も入りやすく、学部関係なく様々な人と交流することができます。私は Drama Society



(留学先での学びについて、授業内容とともに具体的に説明してください。) 私は Media and Communication Department に属し、主に映画や広告などメディアについて学んでいました。イギリスではコロナの規制が緩和されていたため、授業はほぼ全て対面で受けることができました。授業は毎週それぞれ2時間の Lecture (講義) と1時間の Seminar (ディスカッション) で構成されていました。特に大変なのは Seminar で、この時間は事前に提示された資料について話し合うというもので毎週しっかり準備しておく必要があります。とはいえ、私が履修していた授業では、事前準備のための課題に指定された映画の視聴が求められることが多かったため、準備自体はそれほど苦ではありませんでした。ただ、アジア人があまりいない大学で私のような外見は目立つので、授業中に教授から日本人・アジア人としての意見を求められることが多く、常に頭をフル回転させながら授業を受けていました。授業自体はどれも興味深いものばかりで楽しかったのですが、最終課題には大変苦労させられました。一つの授業につき 3000words のエッセイを書く必要があり、その課題のテーマも決まったものが提示されるのではなく授業に関連した問いを自分で設定しなければなりません。そのため、レポートをどのような構成でまとめるかという方針を立てることに時間がかかり、千葉大学で出されていた課題よりも数倍大変だったように感じます。このように、留学先での学習は大変なことも沢山ありましたが、一方で今まで

(留学経験を、就職活動を含めこの先どのように活かしていきたいですか。) 私は留学中にオンラインで就職活動を行い、帰国前に希望の企業から内定をいただくことができました。就職先の企業は英語力を重視しており、海外志向の強い会社であるため、留学で得た経験を活かすことができそうです。また、英語力の向上はもちろんのこと、留学を通じて様々な国籍や宗教、セクシュアリティを持った友人達に出会うことができ、留学前よりも視野が広がりました。さらに、長期間海外で暮らすという経験をしたことで、日本以外の場所でも生きていけるという自信を持てるようになりました。これからも、広い視野を持ち、居場所を日本だけではなくということをお忘れずに生きていこうと思います。



に入り、学内公演に出演しましたが、ここで沢山の友人と出会い貴重な経験をすることができました。



勉強する機会がなかったメディア学について触れることができたのは非常に貴重な経験になりました。映画の描かれた時代背景や、衣装や音響などの要素がもたらす効果、そしてプロモーションの方法など日本ではなかなか学ぶことのできないことをイギリスでは数多く学ぶことができました。そのおかげで、帰国後に執筆した卒論も映画学に関連させることができ、留学先での学びが生きていると実感することができました。

(留学中の1日のスケジュールについて教えてください。) 時期によって1日のスケジュールは異なりますが、多かったパターンは以下の通りです。授業がある日: 起床・支度→授業→友人とランチ、オシャレなカフェ探し→授業→図書館で次の授業の準備→Society に参加→帰宅 授業がない日: 起床・支度→友人とショッピング→ランチ→ミュージカルやコメディなどショーを鑑賞→パブで夕食→帰宅 課題前: 一日中課題に没頭するのみ ニューカッスルの街にはカフェが数多くあり、穴場スポットをよくお昼に探し歩いていました。よく一緒に授業を受けていたドイツ人の友人はヴィーガンのため、ヴィーガンメニューを取り扱っているお店をよく教えてもらい、私自身日本ではあまり食べたことのないヴィーガン料理を沢山味わうことができました。意識していないと見逃してしまうことですが、その友人のおかげで、イギリスではどこに行っても牛乳をアーモンドミルクや豆乳に変更することが可能だったり、スーパーに代用肉のコーナーがあったりと様々な食に関する選択肢があることに気が付くことができました。また、ニューカッスルにはショッピングセンターや、ミュージカルの劇場、スタンドアップコメディの小劇場など様々な娯楽用施設があり、あまり遠出をしなくても十分楽しむことができる環境でした。

(今後の派遣留学を希望する学生にメッセージをお願いします。) 留学中は毎日が冒険のようで、乗り越えなければならない壁も沢山あります。しかし、沢山のミッションを乗り越えたからこそ、留学後には自己肯定感が高まり、次なる挑戦にも前向きになることができます。少しでも留学したいという気持ちがあるのなら、思い切って挑戦してみてください! 楽しいことも大変なことも、その全てが自分自身を成長させるための力になるはずですよ。

# G

(コロナ禍や現在の世界情勢下での留学準備において大変だったことや、今後留学を考えている学生に留学準備段階でのアドバイスがあれば教えてください。) コロナ禍でビザなど留学の情報が急激に減っていたこと、研究室の活動が渡航直前まで忙しかったことで、きちんと長期スケジュールを立てて行動することが難しく、いろんな準備がギリギリになってしまっていた。また、私は留学直前に陰性証明書のために受けた PCR 検査で陽性が発覚してしまい、2週間延期になる、留学前に挨拶に行った人を濃厚接触者にしてしまうなどの被害を出してしまった。今後コロナ禍で留学する人には、できるだけ変更やキャンセルができる航空券を予約すること、留学前にいる人々に会いたくないと思うが PCR 検査を受ける前に人とできるだけ会わないようにすること(濃厚接触者にしてしまう恐れがあるため) に気をつけて欲しい。

(留学先大学の良い点や改善してほしい点について教えてください。) グラスゴー美術大学は、グラスゴーの都心部にキャンパスがありアクセスの良い点や、ウィリアムハーレーの作った建造物の中で授業を受けられる点が素晴らしい。クラスメートはほとんど留学生のため、英語初心者でも安心して留学することができ、グループワークなのでメンバーに影響を受けて成長することができる。シンシナティ大学は、留学生がデザイン学科に私しかおらず、三年

生の学年に普通に混じらないといけなため友達を作るのに大変苦労した。なにか交流できるイベントがあったらいいなと思った



(留学先での学びについて、授業内容とともに具体的に説明してください。) グラスゴー美術大学では、全員がずっとひとつの授業を受け、履修授業を選択することはない。授業時間である月・金の 10:00-17:00(昼休憩 2h) は皆で教室で過ごし、様々な演習を行う。9-10月には午前先生のレクチャーを聞いて午後にグループでレクチャー内容の簡単な実践演習をしたり、ゲストのトークを聞いたりして知識を詰め込む。11-12月の授業時間はグループワークでプロジェクトを進めることが多く、放課後やその他の時間は個人課題を進める。地下鉄の駅や街を観察したり公園でインタビューするなど、日本よりも積極的にフィールドリサーチを行い、物事の根本を理解するためのデザインリサーチメソッドを学ぶことで、体系的にデザインを行えるようになった。また、国際的なグループワークによるデザインを経験することで、様々な国の価値観やデザイン思考、デザインプロセスを学んだ。シンシナティ大学では、Design with nature をメインの授業として選択し、それ以外にもスケッチを学べる授業や考え方のメソッドを学べる授業を履修していた。授業時間はそんなに長くないが課題が出るため、家での作業時間が多かった。グラスゴーとは異なり個人ワークなため、ブランドビジュアル / UI / プロダクトを全てを一人



で作り、動画を作ってプレゼンしたことで良い評価を得られた。また、CG 技術などデザインソフトについて丁寧に教えてもらえるため、作品のクオリティを上げることができた。エレベーターに乗っている想定で投資家にプレゼンをする練習など、プレゼンをする機会が圧倒的に多くあり、自身のデザインを訴求する力が身についた。

(留学中の1日のスケジュールについて教えてください。) (授業のある日) 8:30 起床 10:00 授業 12:00 お昼休憩 13:00 授業 17:00 買い物 18:00 料理・夕食 20:00 課題 22:00 自由時間 0:00 就寝 (休日) 8:30 起床 10:00 買い物・散歩 12:00 昼食 13:00 課題 17:00 出かける準備 19:00 パーティー 0:00 就寝

たことがあります。私は日本に帰ってきて辛い環境に身を置くことになったとき、留学先で出会った素敵な指導者のことを思い出して、環境を変えることへの勇気と外の世界への希望を持ってました。留学によって価値観を広げることが、必ず助けになります。是非挑戦してみてください。



(今後の派遣留学を希望する学生にメッセージをお願いします。) 留学して良かったことの一つに、世界はここだけじゃないんだと知れ

(留学先大学の特徴や留学生へのサポート体制について教えてください。) グラスゴー美術大学は留学生が多いため、留学生へのサポートは手厚く、特に不自由なく手続きを終えられた。普段からイベントも多く、クラスメートだけでなく別の学科の人とも交流ができるため、いろんなバックグラウンドの人と話すことができる。クリスマス期間には、帰郷しない留学生のためにクリスマスのご飯を届けようとするなどのイベントがあった。コーディネーターの方は持ち帰ってアメリカに入学しようとする冬休み中に移動することになるため、寮の事務が閉まっている日でも泊まる場所がないという事態になってしまった。欧米はクリスマス休暇が取れなくなるため、注意が必要。

(留学先大学の良い点や改善してほしい点について教えてください。)私の留学したライプツィヒ大学は、渡航前の段階から劇と親身にサポートをしてくれました。渡航前は色々わからない点かかてきますが、そういった質問にも、メールで丁寧に返答をしてくれました。また、ライプツィヒ大学には、日本人留学生に対し、バディを割り当ててくれる制度があり、私は、渡航初日から、バディの人が来て生活をサポートしてくれました。こうしたことから、ライプツィヒ大学は留学生にフレンドリーな大学であるといえると思います。

# L

(留学先大学の良い点や改善してほしい点について教えてください。)良い点は、無料でドイツ語学習の授業を受けられる点、日本学科の友達作りやすい点、街に音楽の伝統があり、オーケストラやオペラがかなり安く見られる点、留学生でも、基本的にほぼ全ての授業に出席可能な点、などです。改善してほしい点は、あまり思い当たらないですが、強いて言うなら、まずセメスターフィーと呼ばれる、学期ごとに大学に払う金額が、ウェブサイトとずれがあったことがあげられます。実際のコレは、サイ



(留学先での学びについて、授業内容とともに具体的に説明してください。)ライプツィヒでは、授業が、ライプツィヒ大学で受講する講義と、もうひとつ Studienkolleg Sachsen という場所で受けるドイツ語学習の授業の2種類あります。大学の講義では、当初都市計画を軸に学ぼうと思っていたので、「Stadtentwicklung und Bauwirtschaft/都市計画および建築経済」というものらしい名前の授業に出席しました。英語で開講と聞いていたのですが、実際はドイツ語で開講でした。この授業は座学中心というより、フィールドワークを交えて、調査をし、最終的にプレゼンテーションをする授業です。全体的に語学力が足りず、理解が追いつかなかったのですが、なんとかプレゼンテーションを他の人と共同で行い、成績を取ることができました。また前半の冬学期にもうひとつ Lexikologie という、単語の成り立ちについて勉強する言語学的な授業も取っていました。これははじめからドイツ語で開講されている授業で、挑戦してみましたが、結果テストが上手くいかず単位はもらえませんでした。ただ、ドイツ人達と授業を受ける雰囲気を感じることができたので、この挑戦はよい経験になりました。Studienkolleg Sachsenでは発音、文法、書き方の3つの授業を取っていました。学期が始まる前に、事前にオンラインでテストを受け、その結果に基づいてレベルが決まります。私は CEFR B1 に分類されました。これが問題でした。正直、上位レベルの B2 のほうが合っていたと思います。当時話すのはまだ苦手でしたが、文法などは一通り勉強して知っていたので、授業の内容が簡単すぎて退屈でした。なので、後半の夏学期は、ドイツ語に関しては、授業を取らず自習に切り替えました。後半の夏学期、大学の講義としては、データサイエンスの

(留学経験を、就職活動を含めこの先どのように活かしていきたいですか。)もともと就活に活かそうとは考えてなくて、今も考えていません。それよりは純粋に私が好きなドイツ語の能力を伸ばすこと、またドイツ語が話されている地域の雰囲気を知ることが留学の主眼でした。これは、実際よく達成できたと感じています。今後は、まずはドイツ語をさらに勉強していくこと、また、ドイツと日本の社会を比較して見えてくる社会的な課題が存在するので、そのような社会的課題に何か関与していけたらと思っています。具体的な考えには至っていません。



(今後の派遣留学を希望する学生にメッセージをお願いします。)とにかく、自由に、気楽に、そして外の世界への憧れを絶やさずに行うことが大事かなと思います。その他の事、語学力が足りない、就

トに書かれているものよりなぜか10ユーロ高く、後から不足分を払うことになりました。金額に更新があるなら、その都度しっかりウェブサイトにも反映させてほしいと感じます。また講義を、英語開講と書いて結局ドイツ語で開講するのは、ついていけないのでやめてほしいと感じました。あとは、シラバスが基本ドイツ語でしか書かれておらず、解読に苦労しました。もう少し講義の情報を、英語にも対応させてほしいです。ただ、お知らせのメールなどは必ず英語が併記されていたので、それは助かりました。



入門授業を取りました。ドイツ文学の歴史についての授業は、聴講生として参加しました。データサイエンスの授業は、コンピュータを使うというより、知識としてデータサイエンスを理解するというもので、数学的でした。これもドイツ語での講義でしたが、半年たって、ドイツ語のリスニング能力が向上していたこともあり、おおよそ理解することができました。テストは、簡単な計算と、あとは〇〇について論じよ、みたいな問題から構成されていました。今までに学んだドイツ語の知識を総動員して望み、すくぞりぎり(おそらくお情け)で単位を勝ち取りました。とても楽しい経験になりました。以上がライプツィヒで学んだ内容です。

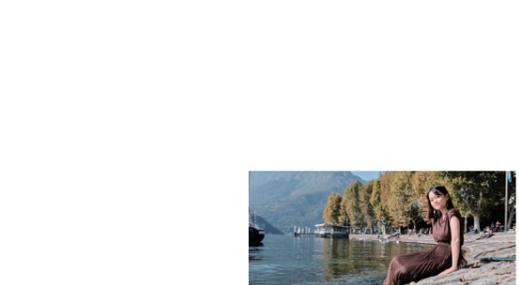
(留学中の1日のスケジュールについて教えてください。)まず授業がある日について。早くても10時から開講の授業が多く、また大学まで15分程度で着くため、朝は余裕がありました。まず起きて朝ご飯を作り、歯を磨いて、準備を整えたら、寮の近くの路面電車の駅まで行きます。そこから10分程度で中心地に着き、ライプツィヒ大学に向かいます。授業を受けたら、学生食堂へ行きます。友達と会うこともありますが、主にドイツ人学生と、互いの言語を教え合う、いわゆるタンデムをしていたので、そのタンデムのために、ドイツ人学生と学生食堂で会うことの方が多かった気がします。その後午後授業がなければ家に帰り、課題をこなしたり、あとは掃除、食材の買い出しなどを行います。午後授業があればそれにも出席しました。私はそこまで過密に授業は取らなかったので、自由時間に図書館などに行き、興味のある本を読んだりしていました。授業がない日は、主に図書館に行っていました。ドイツ語の本が読めることは楽しかったです。課題前は、いろいろとレポートやプレゼンの準備に追われましたが、概ね授業がある日と生活パターンは同じでした。

活に間に合わない、などなどは留学そのものの影響力に比べれば微々たるものです。日本で培われた思考形式に、外側があることを意識して、思い切って飛び込んでみると、いろいろ発見があって、人生が楽になると思います。皆さんの留学を応援しています。

※旅行で海外に渡航する場合には大学への届け出を行うとともに、危機管理を十分に行うことが必要です。

# M

(留学先大学の良い点や改善してほしい点について教えてください。)どちらの大学も共通して、留学生が多く、いろんな国の人と交流できる機会が多かった点ではとても良かったです。残念だった点としては、現地の学生が交流のイベントにあまり参加しなかったり、参加する人がいつも同じメンバーだったり、現地の国の人と交流する機会が少なかったため、その国に溶け込んだ生活感覚や文化を知ることが難しかったです。もっと現地の学生と関われる機会があればいいと思いました。



(留学先での学びについて、授業内容とともに具体的に説明してください。)ミラノ工科大学では、どの授業でも人が4.50人以上で、人が多い基本的には4人~6人のグループワークでした。メインの授業、デザインエンジニアリングの授業で、朝の10時から夜18時まである長い授業でした。午前はデザインプロセスやデザイン理論を実践的に学び、午後は座学でソフトウェアの使い方を学びました。この授業の後半では、学んだ理論やツールを使い実際にテーブルランプのデザインを行い、製図をしたり、工房に何度も通いテーブルランプの模型を作ったりと、実践的に手を動かす力がつきました。もう一つの授業では新しい技術であるMRデバイスを用い、アプリの制作をエンジニアの学生とグループになって行うものでした。今まで扱ったことなかったデバイス上のインターフェースを考えることや他分野の人に考えを伝えることなど色々初めてなことが多く挑戦的な授業でした。どのように他分野の学生とコミュニケーションし、一緒にものづくりを進めていけばいいのか学びました。ケルン応用科学大学での授業は、どれも20人以下の少人数授業で、先生と一緒に同じテーブルを囲んで座って授業が行われたり、先生と学生が1対3の授業があったりと先生との距離が近かったことが印象的でした。私が参加したプロジェクトの1つはケルン市とのプロジェクトで、公園に実際に作ったツールを置いて実際の市民と交流しながら共創するものでした。工房で実際に手を動かしながらツールを作り、実践的にものを作りながら考える新しいものづくり

(留学経験を、就職活動を含めこの先どのように活かしていきたいですか。)留学中、様々な背景や文化を持つ人と一緒にプロジェクトをしたり、旅行をしたりしてきた中で、多くの考えに触れることができました。将来仕事でデザイン活動していく中でも、多様性を持って幅広く問題を考えられるように生かしていきたいと思いました。場所が変わり、状況が変化しても臨機応変に対応する力をつけられたと思います。その力をもって、これからも変化に対して余裕を持って対応できる大人になりたいと思いました。



(今後の派遣留学を希望する学生にメッセージをお願いします。)留学では、何かと思いつきには行かないことの方が多いです。その時に慌てず対応できるように、留学前にいろんな書類の手続きがあったり、調べ物をしたりします。留学準備で挫折す

# M

(留学先大学の良い点や改善してほしい点について教えてください。)ミラノ工科大学は、大学自体が大規模なため、教員もいる留学生にオリエンテーションを開き必要な手続きを説明するサポートを申し込んだことでも、わからないことは先生に直接聞いてみることも、英語が通じず苦しかった。最終的には一人の手続きを行い、言語が通じず苦しかった。ケルン応用科学大学は、小規模の大学で、留学生全員約60人というチャットグループがあり、わからない手続きは先生にそのチャットで聞くことができました。こちらの大学もチャットグループがついていてわからないことを聞いたりしていました。二つの大学とも、留学生を支援する学生団体があり、定期的に観光イベントや交流イベントが開催されま



スタイルを身につけました。また、作ったものを実際に公共の場に置いて市民の声を直接聞けるのも新しい経験で実践的に学ぶことができました。どちらの大学も学生が工房を積極的に使っているのが印象深かったです。私自身、留学前は工房を使う機会がほとんどなく、機械の使い方も最初はわかりませんでしたが、海外のデザイン大学では常駐の先生に相談しながら作れるので、すぐに手を動かしました。

(留学中の1日のスケジュールについて教えてください。)|「モデル的な1日」朝10:00に家を出発、11:00に学校最寄り駅到着、昼ごはんを学校近くのパン屋さんで買う、11:15に学校のカフェでカプチーノを買う、学校の共用スペースでご飯を食べる、ご飯後13:00-16:00に授業、17:00学校を出る、18:00家の近くのスーパーで買い物、19:00帰宅、19:00に家の近くの川沿いを散歩(夏なので21:00まで明るい)、20:00夕食の準備、夕食、22:00学校の課題、24:00就寝。「授業がない日(隣の街まで小旅行)」授業がない日は、街を散歩することや、隣の街まで遊びに行くことが多く、よくルームメイトと一緒に出かけました。

る学生も多くいると思いますが、友達や先生に頼りながら、乗り越えられれば、留学でとてもいい経験ができると思います。応援しています。

(留学先大学の特徴や留学生へのサポート体制等について教えてください。)ミラノ工科大学は、大学自体が大規模なため、教員もいる留学生にオリエンテーションを開き必要な手続きを説明するサポートがあり、わからないことは先生に直接聞いてみることも、英語が通じず苦しかった。最終的には一人の手続きを行い、言語が通じず苦しかった。ケルン応用科学大学は、小規模の大学で、留学生全員約60人というチャットグループがあり、わからない手続きは先生にそのチャットで聞くことができました。こちらの大学もチャットグループがついていてわからないことを聞いたりしていました。二つの大学とも、留学生を支援する学生団体があり、定期的に観光イベントや交流イベントが開催されま

(留学先大学の特徴や留学生へのサポート体制等について教えてください。) ユヴァスキュラ大学は学生サポートに非常に力を入れてくれており、学生の Well-being を考えて学習面はもちろぬ、メンタルやユヴァスキュラでの生活もサポートしてくれま。チューター制度や、困ったときに相談してくれるサポートもありま。学習面では先生 1 人に対して学生の数が少ないため、丁寧に指導してもらえたり、留学中で慣れないことを考慮し、授業参加形態や課題の提出日などもこちらの事情を柔軟に設定してくれま。他にも、大学内には留学を更に充実したものとすするための設備や工夫がたくさんありま。そして、学生団体が多くのイベントやフィンランド文化に触れるための企画を用意してくれていま。



(留学先での学びについて、授業内容とともに具体的に説明してください。) 私は世界幸福度ランキング 5 年連続第 1 位の国フィンランドで Well-being を学びました。学生町かつ地元の方との交流も叶うサイズのユヴァスキュラでは、授業内ではもちろん、現地で生活するからこそ体験出来る学びがありました。留学生活で一番感じたのは、フィンランドはとても過ごしやすく生きやすい国だということです。私は大きく分けて 3 つの要素が特に影響を与えていると考えました。1 つ目は留学前からフィンランドのイメージでもあった自然です。日本ではなかなか目にすることの出来ない湖や、広大な森に町が囲まれている環境やオーロラ、冬の厳しい寒さや日照時間の変化など厳しい環境も影響を与えていると思います。素晴らしいも厳しくもある自然が身近にあるからこそ、日常の小さいことにも感謝や感動を感じられるのかと考えました。2 つ目はやはり社会保障等の社会システムが充実している点です。授業でフィンランドの歴史について、隣国の統治下であったり第二次世界大戦の戦禍を被った背景から社会保障が充実したこと、現在の高齢者 / 障がい者ケアシステムや、教育システム、SDGs への取組についても学び、それらをリアルな生活(机上ではなく)でも実際に自分で経験出来ました。誰にでも最低限の生活は保障される社会です。最後は人のマインドです。フィンランド人と関わることによって、フィンランド人の考え方、生き方を学びました。教育によ

(留学経験を、就職活動を含めこの先のように活かしていきたいですか。) 私は留学を通して世界を知り視野が広が、より柔軟に生きることができるようになったと思います。また、様々なことに挑戦し行動力が伸びたとともに、自分には多くの人に助けられて生きていることも痛感しました。これからは留学経験を忘れず、就職活動を含め、様々な人と関りながら、固定観念に縛られず多様で柔軟に生きていきたいです。また、周りの人に感謝しながら自分の限界を自分で決めずに挑戦し続けていきたいと思っています。



(今後の派遣留学を希望する学生にメッセージをお願いします。) 留学中楽しいこと、辛いこと色々あって忙しくなりますが、一番大切なのは何事にも積極的にチャレンジすることだと思います。

(留学先大学の良い点や改善してほしい点について教えてください。) 上記の様に、サポート体制はユヴァスキュラ大学の一番の魅力だと思います。また、学部を超えて授業が自由に履修できることも良い点の 1 つです。大学についてではないですが、ユヴァスキュラという町は非常に住みやすく、町自体も安全安心でフィンランドのリアルライフも経験するのに最適であることも良い点だと思います。一方で、授業が隔週や週によって曜日が違ったりし、履修したい授業が重複してどちらか 1 つしか取れない点は改善してほしいです。

J

(コロナ禍や現在の世界情勢下での留学準備において大変だったことや、今後留学を考えている学生に留学準備段階でのアドバイスがあれば教えてください。) コロナ禍の留学準備において最も大変だったのは、危機管理シートや判断基準チェックリストなどの、留学中の安全を確保するための書類を提出することでした。留学先の病院や隔離の情報等、日本のサイトに載っていないものもあったので、留学先の国に連絡を取ったりして完成させました。比較的時間のかかる書類で、私は渡航直前まで仕上げられず焦ったので、皆さんには是非余裕をもって早めに取り掛かることをお勧めします。国や地域によって対策も違う場合があるので、友達に聞くだけではなく、自分自身でしっかりと調べることが大切です。また、もう大丈夫だとは思いますが、念のため途中帰国も考慮し、航空券の変更手数料や寮のキャンセルポリシー等も事前に調べていくとより安心して渡航できると思います。コロナではなくても、日本でいつも使っ



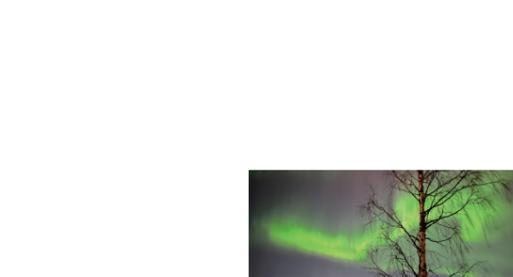
て作られていく部分でもありますが、自分や家族を大切に、自然の有難みを感じ、人と比べず楽しく生きるといー見普通で意外と難しいマインドセットがとても素敵で生きやすいと感じました。しかし、これは日本より少し小さな面積に北海道と同じ人口しかないフィンランドだからこそ実現できるものだと思います。フィンランドは素晴らしいですが、日本が悪いというわけではなく、日本にも素晴らしい面は沢山あるため、今後日本にあった Well-being の形を考えていくことが重要だと考えました。

(留学中の 1 日のスケジュールについて教えてください。) 「授業のあるモデル的な 1 日」: 8 時頃起床 (冬は 9:30 頃) ・簡単な朝食をとる ・午前中は課題や家事を行う ・ランチは友達と学食でとる ・午後の授業に向かう ・授業後時間があれば図書館で勉強する ・18:00 頃から大学の運動クラブに参加 ・その後フラットでフラットメイトと夜ごはんを一緒に食べる ・入浴して就寝 「授業のないモデル的な 1 日」: 8 時 30 頃起床 (冬は 10:00) ・フラットメイトと簡単な朝食をとる ・午前中は友達と散歩やウィンタースポーツ、家事をする ・昼食を友達と学食で食べ、テーブルサッカーで遊ぶ ・午後はイベントに参加したり、友達と料理を作る ・夜はサウナに行きリラククス・夕食をフラットメイトと食べる ・映画を見て就寝 「課題前のモデル的な 1 日」: 7:30 頃起床 ・簡単な朝食をとる ・寮のスタディスペースに行きお昼まで課題・昼食は学食で友達と食べる ・その後少し散歩・そしてまたスタディスペースで課題 ・夜サウナに行きリラククス ・フラットで夜ご飯を食べる ・部屋で課題をしてから就寝

私は参加して後悔したことよりも、参加せずに後悔したことの方が多いです。皆さんの留学が充実したものになることを祈っています!

(コロナ禍や現在の世界情勢下での留学準備において大変だったことや、今後留学を考えている学生に留学準備段階でのアドバイスがあれば教えてください。) やはり一番大変だったのは、新型コロナウイルスの感染予防対策、及び PCR 検査や陰性証明書の入手です。行った事のない国・地域の日々変化するコロナ情勢についてインターネットから情報を入力することは非常に時間と労力を必要とし、複数のサイトから情報をかいつまんでまとめるという作業が大変でした。また、当時は陰性証明書が必須で、出国が元旦であったため、英語のフォーマットに対応でき、尚且つ年末に営業している場所を探すのは一苦労でした。アドバイスとしては、コロナ禍に留学した先輩も複数いるため、直接話を伺ったり頼ったりするのがいいと思います。一人でやろうとするのも自分の力になりますが、特に出国前は何かと忙しくなりますので、頼れる部分は存分に頼っていいと思います。

(留学先大学の良い点や改善してほしい点について教えてください) 学校の付属図書館が朝から夜まで開館しているため、自習環境が整っていた。また、図書館の 1 階にはカフェや学食が備わっているため、館内から一歩も外に出ず 1 日中学習を進めることができたことは非常に良かったと思う点です。学食が学生寮の近くにもあり、11 時ごろから 17 時ごろまで開いていたため、うまく活用すれば 3 食分すべて学食で済ませることができ



(留学先での学びについて、授業内容とともに具体的に説明してください。) 授業は基本的に講義型、実習型、自習型の 3 つの形式をとっており、講義型は日本の一般的な授業のように教授の話を聴講し、たまにグループディスカッションを挟む様式でした。「Sport, Globalization and Multiculturalism」という講義では、前半の授業では講義を聞き、スポーツの国際化について学習を進め、後半ではグループごとに 1 つのスポーツを取り上げ、そのスポーツの国際化について歴史や国や地域ごとの特徴を紹介しながら今後の展望をプレゼンする形式でした。プレゼンのある授業はレジュメなしで発表する練習をするためかなり努力しました。実習型は名前の通り実験実習で、記録を取ってレポートを提出するものでした。「Assessing Functional Capacity」という授業は、授業の半分をオンデマンド型・同時双方型のオムニバス形式の講義で行い、スポーツや運動、健康に関するものの測定方法やデータの扱い方について学習しました。後半では実際に実験室に行き、実験を通して測定を行いました。一番印象に残っているのは、「人体測定学 (Anthropometry)」という分野で、体組成 (脂肪) を測定する方法は生体インピーダンス法やキャリパー法、水中体重測定法など複数あるけれども、それぞれ正確性や実験のやりやすさは異なるため、場合によって用いられる手法が異なるという内容でした。自習型は、第 1 回の授業で教材の説明を一気にされ、すべての課題を与えられるため、決められた期限までにすべてを提出する形でした。「Adapted Physical Activity」という科目は、第 1 回の授業日だけクラスに行き、担当の先生から自主学習の進め方について説明を受け、後は各自課された課題

(留学経験を、就職活動を含めこの先のように活かしていきたいですか。) まず、留学を通して英語の語学力が向上したため、今後も英語を活かした進路を検討したいと思っています。また、この留学で専攻したスポーツ・健康科学についてこの先より深く研究したいと思い、大学院の進学を検討しています。



(今後の派遣留学を希望する学生にメッセージをお願いします。) 派遣留学を進める際に一番大変だったのは留学前だったと思います。これから派遣留学に向けて準備を進めていく中で、様々な困難と対峙すると思いますが、留学中は自分の思い描いた夢や希望が叶えられるので、めげずに頑張ってください!



について学習を進めていきました。課題の内容はレポートやプレゼンテーションの作成、テストの受験と複数個あり、達成できた数に応じて単位数も変わっていくというユニークな科目でした。

(留学中の 1 日のスケジュールについて教えてください。) 授業がある日は 9 時ごろに起床し、身支度をして歩いてキャンパスに向かいました。キャンパスは寮から徒歩 30 分、バスで 15 分ほどのところにあり、お昼はキャンパス内にある学食で済ませました。授業を受けた後は図書館に行き、課題を進め、夕飯も図書館にある学食で済ませることが多いです。9 時ごろに寮に戻り、ジムで 1 時間ほどトレーニングしてその後サウナに入って整っていました。授業がない日は 11 時 ~ 13 時ごろに起床し、そのまま寮の近くにある学食でランチを済ませます。友人と遊ぶ予定がある日は、市内に出てスケートをしたり夜になればお酒を飲みに行ったりしました。予定のない日は自室で千葉大の授業の課題や報告書を書いていました。休日においてもジムとサウナは欠かせません。レポートの締め切りや試験日が近くなると休日でも図書館に籠っていました。前述したように図書館は朝から夜まで開館しており、館内の学食もお昼から夕方までやっているため、一歩も外に出ることなく 1 日過ごすことができます。

ました。また、学生の場合は価格が安く、ビュッフェ形式でどれだけとっても値段が一律であるため、経済的に助かりました。

(留学先大学の特徴や留学生へのサポート体制等について教えてください。) 留学先大学ではチューター制度を導入しており、現地の学生が駅から寮まで同行してくれたり、入寮手続きや学校案内やオリエンテーションなどを担当してくれていたりするため、日常生活はほとんど手動で済ませることが出来ます。また、一般的な学生の場合には学生証を発行する際に会費を支払わなければならないのですが、留学生は会費を払わなくても学食の割引券や電車の学割証、その他お店で受けられる学割を受けるための学生証明書を発行して貰い、一般の学生同様のサービスを受けられることができました。しかし、学生証の発行は無く、複数の紙の管理が必要とされるため、多くの留学生が学生証を発行していました。

(留学先大学の特徴や留学生へのサポート体制等について教えてください。)(街の中心地から10〜15分歩いたところにあります。すぐ近くに森があって、秋には色づいた木々を教室の窓から眺めることができます。敷地も広く、施設もきれいなので、快適に通えます。留学生が多い大学ですので、留学生向けの説明会もありますし、分からないことがあったら student union の方が親切に教えてくださいます。Survival package という、食器やまくらカバーなど生活に最低限必要なものが入ったバックパッカーも student union から借りることができます。大学の職員の方は英語が堪能で、食堂の方も英語で返してくれます。ESN (Erasmus Student Network) の活動が活発ですので、国立公園への遠足や、ラップランドへの旅行、インターナショナルディナーなど、留学生同士が交流できる機会もたくさんあります。



(留学先での学びについて、授業内容とともに具体的に説明してください。)(Basics of Finnish Music Education という授業では、フィンランドの音楽の授業ではどのような教え方をしているのかを学んだり、実際に授業で使われている楽器などを自分たちで演奏したりしました。特にカントレというフィンランドの伝統楽器は音色がとてもきれいで、気に入ってしまったので自分で習いに行くほどでした。Introduction to Finnish Educational Systems and School Life という授業では、フィンランドの教育制度全般についての講義を受け、フィンランドの教育についての基礎知識をつけました。最終レポートでは日本とフィンランドの教育制度について比較しました。その他には評価や早期英語教育に関する授業を受けました。この二つの授業はグループワークが多くあり、自分の意見をすぐに言えないことにもどかしさを感じたりはしましたが、院生の留学生に助けってもらったりして、なんとか終わりました。どちらも教育に関する授業で、千葉大学で学んだこと時には重複していることもありましたが、違う国から来た留学生とディスカッションしながら進めると、日本の教育をまた違った角度で見ることができました。評価の授業に関しては、フィンランドの教育の根底にある「平等」の考えが垣間見えて、教員になったら活かしたい知識を得ることができました。Comparative Perspectives of Preschool Education and Early elementary Education in Different Countries の授業は、就学前教育について各国で比較するとい

(留学経験を、就職活動を含めこの先どのように活かしていきたいですか。)(留学先で、外国語として英語を話す人たちと出会ったことが大きな糧となり、自分の価値観を変えました。来年から教職に就きますが、「世界中の人が外国語として英語を学んでいるんだよ」と伝えて子どもたちに自分の英語を誇りに思ってもらえるような指導をしたいと思っています。また、留学準備期間の情報集めの経験も仕事に活かせるのではないかと思います。自分で動いて情報集めをする大切さを知ることができました。



(今後の派遣留学を希望する学生にメッセージをお願いします。)(私は、日本以外に思いを馳せることができる国ができたのが、幸せなことだと思っています。帰国してからでも、もうすぐ紅葉が始まるかな、あの近くの湖はどんな様子かな…などと考えていま

# E

(コロナ禍や現在の世界情勢下での留学準備において大変だったことや、今後留学を考えている学生に留学準備段階でのアドバイスがあれば教えてください。)(情報収集が最も大変でした。2021年の春は、欧米諸国が規制を解除し始めたタイミングですので、混乱もありました。自主隔離の有無やワクチン接種は毎回必要なのかなどの情報はすぐに更新されて、外務省とフィンランドの保健省のホームページ上で書かれていることが違うなんてこともありました。そこで、大使館に問い合わせたり現地にいる日本人のブログを探したりと、自分で情報を得なければなりません。また私は教育学部ですが、渡航が急に決まったので、教育実習の取りやめなどの連絡なども行わなければならない、学務の方にも迷惑をかけてしまいました。アドバイスとしては、人に相談すること、分からないことはそのままにしないで聞くこと、自分で動くことが挙げられます。特にあまり情報が無い国に渡航する場合には、自分で動いて情報収集をしないとどうにもなりません。

(留学先大学の良い点や改善してほしい点について教えてください。)(良い点は上記の通りですが、授業の形態が様々だということが良い点にも悪い点にもなります。授業形態には、対面、オンデマンド型、Zoom などに加えて自主学習というものもあります。自主学習は、課題となっている本を読んでそれに関するレポートを提出するというものです。学部によっては、自主学習の授業しかないなんていうこともあるそうで、心理学を学んでいる友だちがそうでした。他の学

部の授業を取ることもできるので、一切対面が無いわけではなかったのですが、自分の専攻の学部の授業が全て自主学習ですとかなり残念だと思います。



う授業でした。私は日本人とネパール人の人とグループを組んで、ネパールと日本の就学前教育に関する指導要領を比較しました。比較をしてプレゼンするのはとても大変でしたが、これも院生の留学生に助けってもらって進めることができました。また、Survival Finnish や Finnish folk culture といった、フィンランドに関する授業も受けました。Survival Finnish では、挨拶や自己紹介、買い物で使うフレーズや食材の名前などのフィンランド語を学び、買い物の時に役立ちました。Finnish folk culture では、フィンランドの神話「カレワラ」がフィンランドの日常生活にどう影響しているのかなどについて学びました。

(留学中の1日のスケジュールについて教えてください。)(授業があって課題提出前、かつイベントがある日のスケジュールは以下のようでした。8:00 起床、朝食等 10:00 対面授業 12:30 学食でランチ 14:00 友だちと図書館へ 19:00 帰宅、夕飯等 21:00 ルームメイトと映画鑑賞 授業の時間は、これといって決まっておらず、受ける授業によって授業の長さも一週間に受ける回数も違います。図書館にはゆったり座れるソファのようなものも多く、寝ている人も見かけます。リラックスして過ごせるので長時間図書館で過ごすことができます。余暇の時間は、基本的に外に出るようにはしていましたが、疲れてしまっている時は家でゆっくりしていました。夜は、友だちとご飯を食べに行くか、各国の料理を一緒に作るか、映画を見るかして過ごしていました。もちろん一人で過ごす時もあります。休日は森に散歩に出かけたりもしました。良くも悪くも田舎ですので(娯楽が無いと嘆く人は少なからずいました。)友だちと遊ぶとなったら散歩か外食、ホームパーティーのうちどれかでした。

す。みなさんも半年もしくは1年過すと、ふるさとのように感じられる国が一つ増えていることだろうと思います。ぜひ思い切り楽しんで、たくさん学んでください。



(コロナ禍や現在の世界情勢下での留学準備において大変だったことや、今後留学を考えている学生に留学準備段階でのアドバイスがあれば教えてください。)(私は、パンデミックの影響で留学に行くことが叶わず、1年間期間を延期することで、最終的に留学に行くことができました。社会の状況が刻一刻と変わる中、その時々に合わせて自分ができるベストを尽くすことが大事だと思えます。一度ダメでもやりたいことは、諦めてはいけません。何事も運とタイミングは付きまといますが、やりたいという意思があれば、どこかのタイミングで何からの形で達成することができると、信じてください。1年間待って、行くことができた留学先での時間は、私の人生にとって大きく、豊かな経験を与えてくれました。

(留学先大学の良い点や改善してほしい点について教えてください。)(自然を体験できる授業がたくさんあり、日本では学べないことがたくさんありました。また、総合大学ということもあり、アートや自分が所属していたプロダクトデザイン以外の分野のデザイン学生との交流が刺激的でした。毎月入れ替わりで、授業の成果物が学内に展示されるのも特徴的でした。

(留学先での学びについて、授業内容とともに具体的に説明してください。)(留学先では、自分が学んでいないデザイン、アート分野での学びがたくさんありました。ファッションの授業やデッサン、写真の授業も履修することができ、授業の成果物を学内に展示する機会がたくさんあるので、制作で終わらず、どのように見せ、伝えるかといったところまで一貫して学ぶことができました。また、これまで学んだことがなかったアートの授業を通じて、自分を表現すること、自分を見つめ直すきっかけにもなりました。また、フィンランドの文化やデザインを学ぶ授業を通じ、日本とフィンランドの違い、幸福度の観点で見習うべき、自然とデジタルがうまく溶け込んだフィンランド文化について理解を深めることができました。フィンランドはヨーロッパの日本と呼ばれるほど、日本に似た側面を持っています。地理的に森林面積が多いこと、水が綺麗で、衛生環境よく、治安が良いこと。また、シャイで他のヨーロッパの国に比べ、スキップに苦手意識を持っています。そうした共通点を持つ日本とフィンランドですが、国民の幸福度には大きな隔たりがあります。私は、その違いを生むポイントの一つとして、公共空間に社会との接点「自然と組み込まれていることが影響している」と考えています。これは、フィンランドの最も有名な文化であるサウナにおいて強く感じました。日本のサウナは自分を高める個人主義的な印象がありますが、フィンランドのサウナは人との交流の場となっています。サウナの中では、家族や友人と、見ず知らずの人とでさえ、同じ空間を共有することで、自分の気持ちを伝え合うことが容易です。人口が少なく、人と人が離れて暮らすフィンランドにおいても、公共の場に社会との接点「自然と組み込まれている。だからこそ、常に誰かを感じる」ことができ、寂しさを感じず幸福に過ごすことができるのではないかと思います。また、日本の社会を健康にするために、将来そうした文化を育むような活動に携われたらと思うようになりました。

(留学経験を、就職活動を含めこの先どのように活かしていきたいですか。)(留学で得たことの中で、特に印象的なのは自分の好きな場所で生活することの素晴らしさです。私は、ロバニエミでの生活を経て自然が好きになりました。そして、その自然があるロバニエミという街が好きになりました。パンデミックが始まり、どこにいても仕事ができるようになったからこそ、どんな環境で仕事をするかますます重要に感じます。ロバニエミのように、日本の中で自分が好きな場所を見つけて、その生活をより良くしていくために、これまで培ってきたデザインを活かせるた良いと感じるようになりました。



(留学中の1日のスケジュールについて教えてください。)(平日は起床して、身支度をしたら、学校に向かい授業を受けます。お昼ご飯は、基本的に学食で済ませます。(学食は27ユーロで食べ放題なので、フィンランドの物価を考えると破格です。)(お昼で授業が終わる場合は、お散歩がてら街の中心まで向かいセカンドハンドショップで服を買います。夜は、学校の近くにある Sale というスーパーで食材を買い、スパゲッティをつくって食べていました(街の中心まで行かなければ外食できるお店がなく、お金がかかるめほとんど自炊をしていました。)。時間に余裕がある時は、サウナを予約しておいて、サウナの中で1日を振り返ります。フィンランドの生活では、1日のうち日が常に昇り続ける白夜と、日が昇らない極夜があります。白夜に近い期間は、日がとても長いのであまり寝る時間が決まっておらず、疲れたら寝るようなことが多かったように思います。厚手の日光を通さないカーテンを購入しないと、寝るのが困難です。また、気候が最も心地よい時期で、この時期のサウナは最高です。極夜の時は、陽の光を浴びられないためビタミンを毎日摂取する必要があります。また、太陽が浴びられる時には必ず外に出て散歩をするようにしていました。ただ、極夜の時は、特に気温が低いため毎回外に出るために厚着しなくてはいけないことが億劫でした。休日は、友人とハイキングにいたり、のんびり街を散歩しながら教会でゆっくりしたり、焚き火があるファイヤープレイスでバーベキューをしたりします。自然を感じられるアクティビティが中心になりました。

(今後の派遣留学を希望する学生にメッセージをお願いします。)(何事もチャレンジすることが大事だし、受け身にならず前へ出ていく少しの勇気が、色々な経験につながります。郷にいれば郷に従いましょう。

(留学先大学の特徴や留学生へのサポート体制等について教えてください。)(ラップランド大学は、自然豊かなロバニエミという街の近くにある大学です。総合大学で大きく二つのキャンパスがあり、私はそのうちの一つのアートのキャンパスでデザインを学んでいます。授業の特徴は、自然や伝統工芸といった地域の良さを生かしたデザイン、木を使った家具など、フィンランド伝統のデザインを学ぶことができます。交換留学生の受け入れ態勢が整っており、たくさんさんの学生がヨーロッパから交換留学にきています。また、現地学生との交流も充実していて、休日にはアイスフィッシング、スキー、ハイキングなど、フィンランドならではのアクティビティを企画してくれます。

(留学先大学の特徴や留学生へのサポート体制等について教えてください。)正U圏内の大学ということもあり、ヨーロッパ各国からの留学生が多く、またアジアから来る留学生も多く、いろいろな国の留学生と交流ができたのも魅力的でした。留学生へのサポート体制は充実していて、わからない事があったら、担当の方にメールで聞くこともできるし、図書館にあるインフォセンターで困ったことを聞くことができます。交流の面でも、パティグループというものがあって、学生団体が留学生交流イベントを定期的に開催してくれるので、そこで新しい友達をついたり、スウェーデンの文化を楽しむこともできました。

L

(コロナ禍や現在の世界情勢下での留学準備において大変だったことや、今後留学を考えている学生に留学準備段階でのアドバイスがあれば教えてください。)準備段階で大変だったことは、コロナ禍でのリスク管理に関する資料集めです。また、コロナ禍だったこともあり、前学期にその大学に派遣留学に行っている方がいなく、実際に現地の様子を知ることが難しく、情報集めに苦戦しました。留学先の担当の方に個人的に聞いたりしましたが、日本とスウェーデンでのコロナ対策に関する考え方の違いなどからなかなか知りたい情報を得ることが難しく、正直なところ、渡航前に不安も少しありました。現在は留学が再開しているので、実際に現地に行っている方からの情報集めはとても役立つと思います。

(留学先大学の良い点や改善してほしい点について教えてください。)留学生向けに英語で開講されている授業が多く、留学生が多いことは良い点の一つだと思います。授業の一つに北欧文化に関するものがあり、実際に首都に行ったり、田舎に行ったり、伝統料理をつくったりなど、スウェーデンについてたくさん知ることができる授業はとても魅力的でした。改善してほしい点は、授業時間同士のかがりがあり、1,2回一方の授業を休まないといけないということがあったの



(留学先での学びについて、授業内容とともに具体的に説明してください。)私は educational science 学部所属しましたが、arts and science 学部の講義も履修することができ、スウェーデンのインクルーシブ教育について学んだり、スウェーデンの社会システム、文化について学ぶ授業を履修し、幅広く学びました。基本的には対面授業で生徒の人数も15人ほどでの少人数でした。インクルーシブ教育に関する授業では、ほかのヨーロッパの国の留学生が多く受けているので、スウェーデンの教育システムや、特別支援だけでなく、ディスカッションの際などに違う国の仕組みや課題についても知ることができて得られるものが多いなと感じました。The Swedish Model という授業は、主にスウェーデンの社会システムについて学ぶ授業で、政治だったり、福祉だったり、移民だったり、事前知識が足りないこともあり、難しいと感じることも多かったですが、教科書や授業資料を見直してなんとかついていきました。プレゼンテーションのため、グループワークもあり、授業外学習が忙しかったのですが、その際、日本と比較してみたりといったこともあり、とても自分にとって学びのある授業でした。Nordic culture の授業は、「留学先大学の良い点や改善してほしい点について教えてください。」でも述べたように、どちらかという体験型の授業で、ほかの留学生とも

(留学経験を、就職活動を含めこの先どのように活かしていきたいですか。)自分自身、海外に行く機会がこれまでほとんどなく、異文化体験という面でも初めての経験ばかりでした。海外の人と交流することの楽しさ、日本文化の人気の高さ、海外の人と日本人の価値観の違いなど、さまざまな発見があったので、この発見を今後も自分の中で大切にしていきたいです。また、自分の渡航の際はコロナ禍真最中で行けない可能性が高く、行けるとなったからの、手続き、危機管理に関する情報集めなど、短期間の間にやらないといけない事が多かったのですが、怠らずに行き、実際、留学に行くという決意ができたことは、自分の大事な経験であり、このことを自信につなげ、この先のさまざまなことにも挑戦していきたいと思います。



(今後の派遣留学を希望する学生にメッセージをお願いします。)派遣留学が再開されている現在、是非事前準備をたくさんして留学に挑戦できたら、留学が皆さんにとってよりよいものになると思います。頑張ってください。



交流しながら、楽しみながら受けることができました。また、スウェーデン語の授業も履修しました。自己紹介など、基礎の部分だけしか話せるようにはなりません、ほかの留学生と一緒に学ぶのがとても楽しかったです。

(留学中の1日のスケジュールについて教えてください。)授業が何曜日この時間と決まっているものもあれば、週によって違うといったものもあり、日によってスケジュールはかなり違っていました。基本、授業がある日は朝早く図書館に行って、課題や授業準備をしてから授業に行くということが多かったです。お昼はサンドイッチなど簡単なものを持って行って図書館で食べたり、家で食べたり、その日の気分で決めることが多かったです。授業がない日は、寮にあるサウナに行ったり、自転車で街の方にお買い物に行ったり、友達とカフェに行ったりしていました。授業のある日、ない日に限らず、夕飯は、留学生の友達と一緒に作る事が多かったかなと思います。5月中旬課題に追われる時期がありましたが、その際は図書館で勉強する以外にも、寮にある study room というところを予約して利用していました。パーティーやイベントがないときは、規則的な生活をしていましたが、日照時間が長くなり始めた5、6月は正直、睡眠に苦しんでいました ...。

L

(コロナ禍や現在の世界情勢下での留学準備において大変だったことや、今後留学を考えている学生に留学準備段階でのアドバイスがあれば教えてください。)コロナ禍で出発の直前まで留学に行けるかわからない状況で、飛行機や宿泊先を決めるのが不安でした。万が一のために調べておくことが山ほどあるのにも関わらず、前例がないため、参考にするものもなく大変でした。後回しにせず、早めに行動して万全な状態しておくべきだと思います。私は、現地学生がパティとなってサポートしてくれる制度に事前に登録していました。この制度のおかげで、コロナ禍でイベントが中止となり友達と出会う機会がなくなってしまう中でも、個人的に知り合いを紹介してくれたり、遊びに誘ってくれたりしてとても助かりました。また、自転車やWi-Fiのルーターを中古で買い取ることもできました。このように、現地の学生や、前学期に留学していた日本人留学生とつながる手段があれば活用するべきだと思います。

(留学先大学の良い点や改善してほしい点について教えてください。)留学生はほぼ同じ地域の寮に住んでいます。キッチンが共有スペースとなっているコリドーでパーティーをする習慣がありました。また、EAA という、日本語や中国語を学んでいるスウェーデン人やアジア圏の留学生などが、自由に集まって自由に話したりFIKAしたりする会が毎週定期的に行われていました。このように、留学先でも孤独にならずに様々な人と出会うことのできる環境が良いと思います。改善してほしい点は特に思いつきませんでした。



(留学先での学びについて、授業内容とともに具体的に説明してください。)私の所属していた工学部は1セメスターが2つの study period に分かれていて、それぞれ2つずつ授業を取っていました。前半は、Introduction to Biosensor Technology と Analog Filters を受講しており、それぞれ週に2-3回授業がありました。Biosensor では、講義の他に、グループプレゼンテーションがありました。指定された論文について課題点や関連する技術について話し合いました。専門知識に加えて英語力も必要だったため、とても苦労しました。Analog では、MATLAB の演習がありました。1回の演習時間が4時間以上ととても長く、課題の数も多かったため、集中して作業しても時間内に終わりませんでした。私は未経験だったので、ほぼ友達に説明してもらっていました。前半の授業が終わりに近づいてきた頃、1セメスターを通して週1回行われる、スウェーデン語の授業が始まりました。この授業は留学生向けで文理関係なく履修できます。友達と同じクラスにすることもできたため、一緒に勉強したり、授業外でスウェーデン語の練習をする雰囲気になったりするのが楽しかったです。基本的な単語や文法、会話表現は理解できるようになりました。writing や speaking の課題はスウェーデン人の友達に助けられていました。後半は、Written English Communication for Exchange Students と Nordic History of Technology を受講していました。English では、エッセイや要約を書く練習をするパートと、事前に読んでおいた文章に対してディスカッションを行うパートがありました。課題の量が多いこと、英語で自分の

(留学経験を、就職活動を含めこの先どのように活かしていきたいですか。)現在は千葉大学に来る交換留学生のボランティアをしています。私の担当留学生は日本語が得意ではなく英語で会話しているため、留学での経験が活かされています。また、留学を通して英語で会話することへの躊躇がなくなったので、帰国後も感覚を鈍らせないようにオンライン英会話を続けています。このような活動経験や定期的に受験しているTOEICを就職活動でアピールしていきたいです。就職後は、海外で研究活動をしたいという目標があります。



(今後の派遣留学を希望する学生にメッセージをお願いします。)海外の人と関わって英語を話したい、日本を出てみたいなどの興味があれば、留学に挑戦するべきだと思います。様々な

L

(留学先大学の良い点や改善してほしい点について教えてください。)リンショーンビンは学生の街であるので、ほとんどの学生が大学の近くに住んでいます。また、周りに遊べることも隔られているので、寮で友達と集まってご飯を食べたり、パーティーに行ったりすることも多いです。留学生も現地の学生も勉強に熱心であり、空いた時間は大学の図書館で勉強している人が多かったです。図書館はグループミーティングやランチにも使われていて常に賑やかですが、多くの人が机に向かって作業をしているため椅子ベンチオンには



意見を言わなければならないというプレッシャーが大変でした。Nordic では、主に北欧のバイキング時代について学びました。また、指定された書籍についてのセミナーでは、工業に関する哲学について話し合う機会がありました。グループプレゼンテーションでは、北欧の船の歴史をテーマにし、私は砕氷船について発表しました。

(留学中の1日のスケジュールについて教えてください。)授業のある日は朝8時に起床し、1限の授業に出席していました。昼食は自分で作ったものを図書館で温めて食べるか、友達とカフェで食べていました。午後は授業がないことが多かったため、図書館で友達と課題をしたり、おしゃべりしたりしていました。EAAがある日は17時から長い時は21時くらいまで教室に居座ってFIKAしたり、ゲームをしたり、スウェーデン語を教えてもらったりしていました。夜はスウェーデン人の友達の家でスウェーデン料理を作ったり、映画観賞会をしたりすることがよくありました。また、誰かのコリドーに集まってパーティーすることも多かったです。夜に外食することは少なかったですが、大学やダウンタウンの学生会館でパーティーがあるときは、夜出かけることもありました。予定のない日は自分で日本食を作ってゆっくり過ごしていました。授業のない日は、友達とダウンタウンに出かけてFIKAしたり、買い物したりして過ごしていました。

考えを持った人と出会うことで、日本では得られない感情や悩み、知識が増え人生経験が豊かになります。

(留学先大学の特徴や留学生へのサポート体制等について教えてください。)リンショーンビンは学生の街であるので、ほとんどの学生が大学の近くに住んでいます。また、周りに遊べることも隔られているので、寮で友達と集まってご飯を食べたり、パーティーに行ったりすることも多いです。留学生も現地の学生も勉強に熱心であり、空いた時間は大学の図書館で勉強している人が多かったです。図書館はグループミーティングやランチにも使われていて常に賑やかですが、多くの人が机に向かって作業をしているため椅子ベンチオンには

(留学先大学の特徴や留学生へのサポート体制等について教えてください。)  
サラマンカ大学は、スペインの首都マドリドからバスや電車で約3時間の場所にあるヨーロッパの中で最も本格的な歴史ある大学です。サラマンカはスペイン国内でも特に歴史の深い街で、世界中から留学生が多く訪れていました。私が所属していた文庫学部は留学生へのサポートが非常に手厚く、日本人の先生が授業の進め方を相談にのってくださったり、休日に食事にお誘いいただいたり、安心して楽しい留学生活を送ることが出来ました。また、サラマンカの街には上層で夫妻がいらしたことがありました。

# S

(コロナ禍や現在の世界情勢下での留学準備において大変だったことや、今後留学を考えている学生に留学準備段階でのアドバイスがあれば教えてください。)  
留学準備は、思った以上に申請するものが多く準備できる日にちも少なかったです。家探しや航空券の手配、ビザの申請などやらなければいけないことをリストアップしてから準備に取り掛かることをお勧めします。また、コロナウイルスによって各航空会社のキャンセルポリシーが通常時とは異なるものになっていることがあります。出発直前や乗り継ぎ時に陽性になった場合など様々なことを想定してすぐに対処できるように、隅々まで航空会社のホームページを読んでみてください。他にも、携帯電話やクレジットカード、パスポートを紛失したり、盗まれたりしたときの対処法についてもしっかりと調べて危機管理用の資料を作り、印刷して携帯しておくとならぬ間に安心だと思います。

(留学先大学の良い点や改善してほしい点について教えてください。)  
色々な国から留学生が来るため、留学生へのサポート体制が整っていることが良い点です。履修の仕方や帰国時の証明証の発行の他に、言語に困る学生のために2ヶ月ほどの短期で通える大学附属の語学学校が開校されていました。これらの制度面以外では、夜に1人で心配なく歩けるほどの治安の良さ、バル巡りをしやすい物価の安さ、なんといっても世界遺産に認定されている素敵な校舎や街並みはサラマンカ大学の大きな魅力だと思います。



(留学先での学びについて、授業内容とともに具体的に説明してください。)  
前期・Gramática para la Enseñanza del Español I (Filología) 水11-13時  
《スペイン語を教える方法を学ぶ》  
・Gramática para la Enseñanza del Español II (Filología) 金11-13時《スペイン語を教える方法を学ぶ》  
→上記2つの講義は課題と試験勉強がとて大変でしたが、頑張った分、前期のうちにスペイン語の能力をかなり向上させることができました。  
・Historia del Trabajo Social y Contextos de Desarrollo (Ciencias Sociales) 水16-19時《スペインの社会福祉の歴史を学ぶ》  
→ディスカッションをすることが多く、受講生の中に日本やアジアに興味がある人がいなかったため毎回話し合いの輪に入るのが大変でした。しかし、勇気を出して声をかけてみると意外と仲間に入れてくれて、自分から臆せずコミュニケーションをとる重要性を学びました。  
後期・Sociedades de Asia Oriental (Filología) 火19-21時《アジア圏の文化について学ぶ》  
→この授業では中国、韓国、日本、北朝鮮の文化について学びました。違う文化圏の人の日本の文化への捉え方が自分とは全く違って興味深かったです。客観的に自分の捉え方や自国について考える面白さを学びました。  
・Traducción Directa: japonés (Traducción y Documentación) 水11-13

(留学経験を、就職活動を含めこの先どのように活かしていきたいですか。)  
私はスペインへの留学を通して、母語が違う人とも対等にコミュニケーションをする力や、自分とは大きく異なる考え方を受け入れられるような柔軟性を身に付けることが出来たと感じています。就職後は国や働く業界など、様々な自分とは異なる背景を持った人と協働できるような場所でこれらの力をさらに伸ばしていきたいです。そしていつかまた海外に出られるようなチャンスを掴み取りたいです。



(今後の派遣留学を希望する学生にメッセージをお願いします。)  
派遣留学で色々な人と出会い、かけがえのない経験をする事ができて、本当に参加して良かったと感じています。是非勇気を出して一歩踏み出してみてください!自分の世界を大きく広げられるチャンスが待っています。



時、金9-11時《日本語からスペイン語への翻訳法を学ぶ》  
→翻訳法を学んだこの授業では、話し手のバックグラウンドに応じて変わる語尾の翻訳法などを3人1組のペアになって話し合いながら学びました。スペイン人の学生とペアと一緒に課題をする中で訛りや丁寧な言い回しなどを楽しく学び、定着させることができました。

(留学中の1日のスケジュールについて教えてください。)  
・モデル的な1日  
9時起床 朝食 10時課題 11時~14時講義、昼食 14~17時自由 17~19時語学学校 19~22時休憩 22時夕食  
私は週5日(金曜日は隔週)17~19時の語学学校に通っていたので、朝から夜までスペイン語漬けになる日が多かったです。昼食や夕食はなるべくルームメイトや友達と食べて、積極的にコミュニケーションを取る時間を作っていました。就寝前もルームメイトの部屋を訪ねて今日1日あった事話することを意識していました。  
・授業がない日  
10時起床 11~12時自由 13~14時ピクニックの準備 15時友達とピクニック 22時バル巡り  
授業がない日は、2回に1回は友人と集まってゲームをしたり、お互いの国の料理を教えあったりしていました。天気も良く、お店の空いていない日曜日にはピクニックをする事も多かったです。基本的に休みの日は自分の時間と友達との時間のどちらも大切にできるように計画を立てていました。

# S

(コロナ禍や現在の世界情勢下での留学準備において大変だったことや、今後留学を考えている学生に留学準備段階でのアドバイスがあれば教えてください。)  
私が渡航した2021年は、ずっと海外渡航を控えるように勧告が出ていたのが正直留学できないかなと思っていましたが、渡航3.4ヶ月前になって解除されました。準備をすぐにしないと間に合わず慌たしだったので、ビザ申請やワクチンなどコロナウイルス関係のことを事前に調べて早めに準備を進めていくことが大切だと思いました。書類を発行してもらうために時間が必要なものもあるので注意した方がいいと思いました。コロナウイルスに関する必要書類は国によって違ったり、複雑なルールがあったりと思うので、これも時間をかけて調べた方がいいと思います。勉強の面では、もちろんたくさんして留学するのに越したことはないですが、現地です生活することが一番

(留学先大学の良い点や改善してほしい点について教えてください。)  
良い点としては、先述した通り素敵な街並み、校舎の中で勉強することが出来ることです。勉強のモチベーション向上につながると思いました。また学部ごとに図書館があり、どれも綺麗だったので、勉強がとてはかどりました。さらに、他国からの留学生や日本語学習者が多くいるので友達ができやすいと思います。改善してほしい点は特にありません。



が必要な課題が主でした。授業は全て対面式でした。教室の様子については、FUNDAMENTOSの授業は一年の選択必修だったようで、受講者がたくさんいました。SOCIEDADESはoptativaでしたが受講者が本当にたくさんいて、席の間隔がほとんどありませんでした。その他の授業は少人数での授業で、教室も小さめでした。また、GRAMÁTICAは日本以外からの留学生も多く受講していました。

(留学中の1日のスケジュールについて教えてください。)  
【授業がある日】7:00起床、お散歩する 冬の朝は少し暗くて刺さるような寒さです。綺麗な街を見ながらお散歩するのが好きでした。特にクリスマスの時期はイルミネーションがあって歩いているだけでも楽しいです。8:00朝ごはん(自炊) ご飯は基本自炊していました。パンケーキをよく焼いていました。9:00洗濯などの家事をする 11:00-13:00授業 千葉大学の授業より長いので集中力を続かせるのが大変です。先生によって休憩があったりします。13:00-15:00友達と遊ぶ 同じ授業を受けている友達とカフェに行ったり、友達の家に集まってご飯を食べたりします。15:00-17:00図書館で勉強 お気に入りだったのは文庫学部の図書館です。本に囲まれながら、広々としたところで勉強できます。17:00-19:00語学学校 前期後期ともに語学学校に通ってました。20:00スーパーで買い物をして帰宅。21:00夕ご飯 22:00シャワー ユニットバスだったので、湯船が恋しかったです。24:00おやすみなさい【お休みの日】9:00起床、お散歩 10:00ご飯 11:00ルームメイトと話したり、家でゆっくりしたりする 14:00昼ごはん 15:00お昼寝 19:00友達と集まってご飯、バルに行く 夜遅くに帰宅

(留学経験を、就職活動を含めこの先どのように活かしていきたいですか。)  
スペインで生活して帰ってくる事が出来たということだけで自信が持てるようになりました。この留学を通して、したことが無いことも勇気をだしてやってみる度胸や、色々な人と仲良くなる事が出来る力が身についたと思います。これから数え切れない人や知らないことに出会うと思いますが、ためらうことなく行動できると思います。



(今後の派遣留学を希望する学生にメッセージをお願いします。)  
私は全く真面目ではないし、留学するというと驚かれました。そんな私でも周りの助けを借りながらしっかり生活できたし単位も取得できました。少し勇気を出すだけで自分の世界がぐっと広がると思います。安心していつでもらっしゃい!

(留学先大学の特徴や留学生へのサポート体制等について教えてください。)  
私が留学したサラマンカ大学はヨーロッパで最も歴史がある大学の一つです。26もの学部がある総合大学として、国内だけでなく世界中から多くの学生が集まっています。キャンパスは歴史地区にあり、美しい街並みが残っています。世界遺産の中心で学ぶことが出来る大学としても人気があります。歴史地区以外にも様々な学部の建物が点在しています。また日本との関わりも深く、当時の天皇皇后陛下が訪問されたこともあります。日西文化センターで日本文化のイベントが開かれることもあります。また、日西文化センターで日本文化のイベントが開かれることもあります。それぞれ留学生にコーディネーターの先生が一人ずつついてくれます。主に授業の進め方について相談することが出来ます。日本人の先生もいるので、不安なことはすぐに解決できると思います。

(留学先大学の特徴や留学生へのサポート体制等について教えてください。) 私が留学したサラマンカ大学には留学生が多数在籍しており、初めてのスペイン語圏への留学先としてはとても安心できる環境でした。留学生向けのイベントや交流会も数多くあり、初めは私が所属していた翻訳学部には、学期開始前のオンラインイベントや交流会のものもありませんでした。向か手続きや授業開始で不明点があれば、学部に設置されている La Secretaría (秘書課) に直接質問することができ、メールでの問い合わせも可能でした。現地の学生もみんなどんどん来てくれて、助けを求めればいつでも力になってくれました。

# S

(コロナ禍や現在の世界情勢下での留学準備において大変だったことや、今後留学を考えている学生に留学準備段階でのアドバイスがあれば教えてください。) 国の要請で海外への渡航が制限されており、渡航2ヶ月前に長期留学の許可が降りるまで、その年の留学は無理だろうと考えていました。そのためビザの手続きや居住先などの準備には全く手をつけておらず、留学開始直前に諸手続きに終われ、同時に荷造りなども進めなければならず、勉強面での準備が疎かになってしまいました。手続きに関しては、すぐに対応できるように、前々から一通り把握しておくことが大切だと感じました。また、コロナ禍での留学ということもあり、感染した際の対応や隔離時に利用する宿泊施設、医療機関などを念入りに調べる必要がありました。留学前の語学レベルで、現地の情報を収集するのがとても大変でした。しかしこの経験が留学中で情報収集を行う際にも役立ちました。留学前から留学先の情報サ

(留学先大学の良い点や改善してほしい点について教えてください。) 年間を通して学生向けのイベントが多く、現地の学生と交流できる機会が多くあった点がとても良かったです。日本語を勉強しているスペイン人と日本人留学生との交流会も毎週ありました。また、他学部の授業も受講することができ、自分の興味関心に合った授業に参加することができました。改善してほしい点を挙げるとすれば、冬場の教室の寒さです。基本



(留学先での学びについて、授業内容とともに具体的に説明してください。) まず、翻訳学部での授業ですが、日本語のウェブサイトや小説の節をスペイン語に翻訳するという実用的な内容でした。ペアワークも多く、スペイン人学生と一緒にどんな翻訳が自然なのかを議論しながら課題に取り組むため、自分の意見をスペイン語で伝えることに最初は苦戦しました。普段何気なく使っている日本語に対する意識も変化したように思います。単にスペイン語の文法的な知識だけでは解決できない文化的な要素もあり、翻訳の難しさを実感しました。また、外国人の視点から日本語の文法に触れることができたのも貴重な経験で、帰国後に日本語の文法を勉強しようとするきっかけになりました。また、文献学部で開講されていた、「外国人のためのスペイン語文法教授法」という授業を履修しました。スペイン語は大学で2年半学んでいたのに、ある程度文法は理解しているつもりでしたが、スペイン人の視点から文法を見つめ直すことができ、文法の奥深さに魅了されました。ただ、文法を1から学ぶのではなく、スペイン文法をすでに習得した上で、それをどのように教授するかを考えることが目的の授業なので、進度が早く、予習復習が大変でした。課題やミニテスト、プレゼンテーションもあったため常に勉強に追われていましたが、苦労した分、得るものも大きく、千葉大学に提出する三次論文や帰国後の卒業論文での研

(留学経験を、就職活動を含めこの先どのように活かしていきたいですか。) 私は留学先で翻訳を主として学んでいました。しかし前述した、スペイン語文法教授法の授業に参加したことが契機となり翻訳よりも文法研究に関心を持ち始めました。卒業後は派遣留学と同じ留学先のサラマンカ大学で文法教授法の修士課程への進学を考えています。留学先で翻訳だけでなく他学部の授業に参加して、自分の新たな興味関心に気づいたように、何事も経験してみないとわからないことだらけです。後先のことばかり考えすぎて立ち止まり、貴重な時間を無駄にすることがないよう、何事にもとりあえず挑戦してみるという姿勢を今後も大切にしていきたいです。



(今後の派遣留学を希望する学生にメッセージをお願いします。) 海外の大学で現地の学生と一緒に授業を受けられるという機会は、派遣留学だからこそ実現できる貴重な経験です。留学を経て様々な困難に直面し、語学面だけでなく、人間的にも大きな成長を感じることができました。不安なことも多々あると思いますが、強い意志を持って、留学を楽しんでみてください。応援しています。



究内容にも結びつけることができました。プレゼンテーションの内容は、何か1つ文法のテーマを選び、外国人生徒を想定して授業をす展開するというもので、スペイン人学生とペアになって発表を行いました。教室内での発表は任意でしたが、せっかくなので挑戦してみることにしました。この体験が大きな自信に繋がりました。

(留学中の1日のスケジュールについて教えてください。) 前期の授業は全て午前中に開講されていました。1コマ授業を受けて帰宅し、昼食を済ませて一度休憩するという流れでした。時間に余裕があるときはこの時間に課題を片付けていました。また、平日の夕方は語学学校に通ってスペイン語のレッスンを受けていました。帰宅後は夜ご飯を食べた後シャワーを浴び、疲れてすぐ寝てしまうことが多かったです。授業がない日は、朝はゆっくり過ごし、カフェなどでレポートやグループワークに取り掛かっていました。ジムなどに行き、息抜きをしたり、友人と買い物や散歩をしたりすることもよくありました。日曜日はスーパーマーケットが閉まってしまいうので、買い物はなるべく平日に時間の合間を縫って行っていました。定期試験前は友人数人と集まって勉強会をして過ごすこともありました。試験の前には連休があることが多かったため、休みの日を利用して集中的にテスト勉強を行いました。後期は生活に余裕が出て外出する機会が増えました。授業をや課題を終えてから、週末の夜は友人とバーに行って遅くまで語り合っていました。

的にサラマンカではエアコンではなくヒーターを使うので、教室が温まりづらく、よくアウターを着たまま授業を受けていました。

# B

(コロナ禍や現在の世界情勢下での留学準備において大変だったことや、今後留学を考えている学生に留学準備段階でのアドバイスがあれば教えてください。) 留学準備で一番大変だったことは、日々変化する世界情勢に対応して情報収集することです。コロナ禍では必要な書類や考慮すべきことが数多くありました。特にオンライン授業に関すること、現地でのコロナウイルス罹患時の対応、感染の疑いのある場合に検査できる病院を調べたりすることが大変で、渡航前に現地の大学、学生寮、病院とメールでのやり取りを繰り返しました。その結果、準備していないことへの不安はほとんどないまま、渡航することができました。もちろん不測の事態はつきものですが、ある程度のことは事前準備が可能です。私の場合、渡航後に現地の空港でSIMカードの販売所が見つけられず少し焦った経験があります。しかし事前に空港から滞在先までの

(留学先大学の良い点や改善してほしい点について教えてください。) バスク州立大学の良い点は、語学の授業が充実している点と、コーディネーターとの連絡がスムーズにとれる点です。特に語学の授業は、渡航前の集中講義から全てオンライン開催でしたが、様々な留学生との交流の場にもなり、非常に満足度が高かったです。一方で、改善してほしい点は、学部の授業の充実度と留学生コミュニティのキャンパス差です。キャンパスが一番大きなビルパオには一番大きな留学生コミュニティがあり、活発な活動が行われていた印象があります。



(留学先での学びについて、授業内容とともに具体的に説明してください。) 留学中は、主にスペイン語関連の授業を中心として、バスク語、英語も学んでいました。バスク大学の授業は、どの授業も週2回、1回120分で、ZOOMを使用したオンライン授業と対面授業が併用されていました。全ての授業に共通して、少人数でのグループワークや発表が多く、積極的に発言することが必要でした。学部開講の授業ではスペイン語の表現について学ぶ授業、英語の授業を履修しました。特に、スペイン語の授業が興味深く、スペイン語のコミュニケーションについて、性数について、参考文献の書き方などについても学びました。先生の話すスピードも授業の速度も速く、課題も大変でしたが、周りの人の力を借りながら取り組みました。留学生向けの語学の授業では、スペイン語は渡航前の集中講義と前期は中級レベル、後期は上級レベル、バスク語は初級レベルを履修しました。スペイン語の授業では、文法を学んだり、グループワークを行ったり、口頭発表をしたりしました。授業の課題自体はそこまで多くなかったのですが、ヨーロッパ出身の留学生たちのレベルの高さに刺激を受けて、特に単語の復習は怠らないようにしていました。バスク語の授業では、スペイン語で説明を受けていました。1カ月に1度のペースで遠足があり、実際に街中でバスクの文化に触れることができました。それぞれの授業にはもちろん試験がありました。中にはオンラインだけで試験まで完結してしまう授業もあり、留学期間を通して人脈を広げるという面では物足りなさを覚えたこともありますが、この1年間色々な

(留学経験を、就職活動を含めこの先どのように活かしていきたいですか。) 今回の留学では、世界情勢の変化に気持ちが翻弄されたり、コロナ禍の影響で人脈形成の難しさに直面したり、苦労したことも多々ありました。しかし、様々な困難を乗り越えたからこそ、語学力だけでなく、迷ったらやる、という行動力や危機管理能力、柔軟性も身に付き、日常に楽しさを見出せる、より自立した人間に近づいたと感じています。現在目指している将来像は、留学で培った経験を活かして、様々な価値観の人と協働しながらグローバルに働き、周りにポジティブな影響を与えられる人材になることです。



(今後の派遣留学を希望する学生にメッセージをお願いします。) 留学は予想以上に大変なこともありますが、振り返ると、あの時頃



言語にどっぷりと浸かって勉強できたことは非常に大きな経験になりました。また、授業以外の時間も多くある中で、留学先大学の授業に関する勉強だけでなく、千葉大学の三次論文や資格の勉強も行うなど、自分で時間をマネジメントする力が身に付いたと感じています。

(留学中の1日のスケジュールについて教えてください。) 授業のある日の1日: 7:30- 起床、朝食、出発準備 スペインの朝はとても暗く、布団から出るのが大変でした。 8:45- 出発 寮から大学まで徒歩7分程度でした。 9:00-11:00 対面授業 11:30 帰宅 12:00- 昼食 自炊することが多かったです。 13:30-15:30 オンライン授業 15:30-16:30 授業の復習・課題 16:30-19:30 自由時間①買い物に行ったり、体を動かしたりしてリフレッシュしていました。 19:30-24:00 自由時間②夜は自炊したり、友達とバルへ行ったりしていました。 就寝前に散歩、ブログの執筆、日記の記入、次の日の準備をしていました。 01:00- 就寝 授業がない日: 朝は比較的ゆっくりと起床し、その日にやりたいことを書き出していました。自分のしたい勉強をしたり、友人と集まったり、日本の友人や家族と通話したり、買い物に行ったりしていました。長期休暇にはスペイン国内旅行もしました。

張ってよかったと思うことばかりで、経験したことや培った人脈は全てが一生涯の宝物です。何事においても、挑戦するかしないか迷ったら、ぜひ「挑戦する」という選択をしてみてください! 応援しています!

(留学先大学の特徴や留学生へのサポート体制等について教えてください。) バスク州立大学の特徴は大きく2つあります。1つ目は、バスク州内に3つのキャンパスがあり、特に私が留学したビトリリアは自然量かでのびのびと勉強できることです。日本からの留学生は他のスペイン国内の大学に比べるあまり多くない印象です。2つ目は、留学生向けの語学の授業が開講されていることです。バスク州はスペイン語とバスク語が公用語であるため、両方の言語を学ぶことができます。バスク州立大学では、学期ごとに留学生コーディネーターがいます。履修に関することから日常生活に関することまで相談可能で、連絡もスムーズにとることができました。

(留学先大学の特徴や留学生へのサポート体制等について教えてください。)(IADEの施設はおしゃれな2号棟といった感じで、規模もデザインコースのような感じでアットホームでした。留学生センターみたいなところはありますが、手続き以外のサポートは特になかったです。POLIMIはマンモス校で、キャンパスも3つくらいあり、それぞれ何区画もあります。総合校舎付近のような雰囲気です。パティ制度があるらしく、千葉へ交換留学する予定の学生を紹介されました。



(留学先での学びについて、授業内容とともに具体的に説明してください。)(POLIMIで受けた授業の1つです。Unityを使用したAR/VRアプリケーションの制作に必要な知識と技術の習得を目的とした授業でした。各授業では、ARやVR技術が使われている事例の紹介、Unityの使い方のレクチャーが主に行われました。最終課題では、いくつかのプロジェクトが用意されており、その中からARアプリケーションの制作を選びました。受講者数は、60名ほどでした。一通りのUnityについての学習が終了した後、最終課題についての講義に移りました。最終課題は用意されたプロジェクトから好きなものを選び、実装していくというものでした。私は、初めにEMOJIというAPIを用いた表情認識を絡めたARアプリケーション制作の課題を選び進めようとしたのですが、パソコンのスペックの問題で実装へ進めなかったため、DUOMOの日時計の仕組みについて学習するためのARアプリケーションの制作に取り組むことになりました。大まかなアプリの流れや内容を示すストーリーボードが提供され、それに沿った形で実装していきました。MARSというUnityアセットを用い、ARの環境を設定しました。プログラミングに関する講義はなかったため、スクリプトの作成はネットで検索しながら自力で進める必要がありました。教授からフィードバックをもらいながら、改善を繰り返

(留学経験を、就職活動を含めこの先どのように活かしていきたいですか。)(留学期間中は、人と交流したり、現地を探索したり外に出てみる。外からのものを取り入れてみることもしていました。しかし、どちらかというとき自分の内面に潜っていたことの方が印象に残っています。その過程で得た気づきや考えが自分のためになるようにしたいと思います。



(今後の派遣留学を希望する学生にメッセージをお願いします。)(葛藤や不安や心配がある人もいます。最終的には、自分の心の声を聞いて、自分の頭で考えて、自分で決めることが大事だと思っています。



(コロナ禍や現在の世界情勢下での留学準備において大変だったことや、今後留学を考えている学生に留学準備段階でのアドバイスがあれば教えてください。)(VISA取得の手続きが大変でした。特にイタリアのVISAはポルトガルで申請したため、絶望的に苦労しました。必要な書類が多いことや、申請の予約をするのが大変なこと、いつ交付されるのかわからないことなど、いろいろと煩わしかったです。私はできなかったのですが、書類を集める、家の手配、航空券の確保、保険加入など、自分でできることは早めに終わらせるといいと思います。行政の手続きは予定通り完了するのを祈って待つしかありません。実際には、メールは返ってこないし、電話も繋がらないし、体当たりで領事館を訪ねても取り合ってもらえないなど、祈っているどころではなかったのですが、まあでも予定通りいかなくても、死ぬことはないで過度に不安になったり、心配したりしなくても大丈夫だったなど、今振り返ると思います(心配性なので、当時はめちゃくちゃ不安で消耗していました)。

れなかったです。



返しました。アプリケーションが完成した後は、評価のためにユーザーテストを行いました。その結果、大きな問題はみられず、この課題の目的である、日時計の仕組みを分かりやすく理解するということが達成できました。最終的に、プレゼンのスライド、使用シーンの動画、実装について記述した簡単なレポート、Unityのオリジナルファイルを提出しました。

(留学中の1日のスケジュールについて教えてください。)(IADE朝ご飯はサンドイッチをよく食べていました。確か、授業は午後からだったので、少し前に学校に行って作業することが多かったです。授業が6時や7時ごろまででありました。帰りにスーパーに寄って買い物をして、その後ご飯を作って食べていました。その後ゆっくりしてから眠るのが理想でしたが、度々夜遅くまで隣の部屋でパーティーをさせて睡眠を妨害されていました。授業がない日は、ひたすら散歩していました。お気に入りのカフェと公園、美術館に繰り返し通っていました。POLIMI朝ご飯は、クロワッサンとカプチーノを度々カフェで食べていました。3つの授業のうち、1つは対面必須であったため、学校へ行っていましたが、残りの2つはオンラインで受けていました。近くの公立図書館で午後から閉館する7時くらいまで作業していました。課題前は家でも作業していました。授業がない日は、街を探索していました。

(コロナ禍や現在の世界情勢下での留学準備において大変だったことや、今後留学を考えている学生に留学準備段階でのアドバイスがあれば教えてください。)(コロナ禍でもそもそも渡航する人が少なかったため渡航情報集めることが大変でした。特に私の留学先はマイナーな国だったので何度も何度も調べました。情報を調べる際には日本語ではなく英語で検索するとなりにたくさんの方ができてきたのでお助めです。インスタグラムやツイッターなどのSNSに情報を載せている人もいたのいるんな方法でアプローチしてみるといいと思います。持っていけばよかったです。あと渡航してから思ったものは、日本の食べ物です。日本人があまり住んでいない地域だったので日本の食材を見つけるのが難しかったです。だしなどの調味料を何種類も用意してたくさん持っていくことをお勧めします。服をたくさん持っていくというよりも食べ物などの海外では購入しづらいものを持っていくのがいいと思います。直前まで渡航できるかどうかかわからず、直前にチケットを買いました。直前だったのですごくチケットが高かったです。これから渡航する人は私が渡航した時よりも状況が安定しているので早めに購入した方が費用を抑えられると思います。

(留学先大学の良い点や改善してほしい点について教えてください。)(留学先としてよかったのは日本人があまりいない国だったことだったと思います。もちろん大変なこともたくさんありましたが、その分ほかの国出身の学生とたくさん交流ができたし、自分の成長につながったと思います。また、留学先の大学には留学生のためのイベントがたくさん開催されていたのでそれらも自分の留学生生活を豊かにしてくれました。改善してほしい点については、衛生面です。シャワー

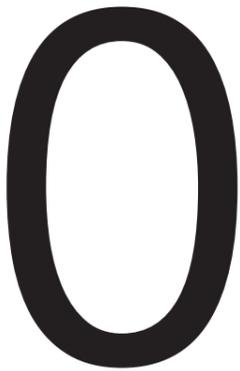


(留学先での学びについて、授業内容とともに具体的に説明してください。)(留学先で一番自分の成長につながった授業は intercultural communicationの授業でした。この授業は自分の専攻につながったものであったため受講しましたが、想像以上に自分自身の成長につながりました。授業のスタイルは、半がチェコの学生で、それ以外の半分は留学生でした。先生が一人でその先生を囲むようにして座り、ディスカッション形式で授業をしました。毎回の授業でお題があり、そのお題について各国ではどうであるかを話すといった授業でした。日本はほかの国と比べて特徴のある国だったので、何回も発言を求められました。最初3回くらいの授業ではなかなかうまく話せず落ち込むことが多かったのですが、途中から今回は3回は発言するといった目標を自分自身で決めて授業に臨むことにしました。ほかの国の学生が積極的に発言するのを見てすごく刺激になったのを覚えています。面白かった授業はフラメンコの授業です。体育の授業を英語で受けるのは、普段使わない単語を用いたりしてとても勉強になりました。また、ダンスをほかの学生の前で踊ることとても恥ずかしさを感じていましたが、ダンスに自信を持つ学生がたくさんいたり、すごく優しい先生に出会えたことがすごくよかったです。

(留学経験を、就職活動を含めこの先どのように活かしていきたいですか。)(就職活動はすでに終わっていますが、外資系企業で働く予定です。留学生活を通して、新しい環境でもがきながら生活することに楽しさを感じるようになったので新しい環境で、海外とつながる仕事をすると就職軸で就職活動をしました。働き始めるまでに、海外旅行をたくさんして、英語を使う機会を持ち続けたいと思います。また、第三言語を学習することが新しい目標の一つだったので、その学習も頑張りたいと思います。



(今後の派遣留学を希望する学生にメッセージをお願いします。)(不安なことがたくさんあると思いますが、たくさん準備して挑めば絶対に楽しい留学生活があなたを待っています!自分



ルームやトイレ、キッチンを共同していたのですが、それらはとても汚かったプライベートが守られない空間でした。生活するうちに慣れていきましたが、自分の持ち物が盗まれたこともあったのでストレスでした。



ロシア語の授業も受けました。受けた理由は、ロシア語のイントネーションが好きなのとロシア語を話す友人が多かったからです。英語でほかの言語を学ぶのは難しいのかなと最初は思ったのですが、文法が英語と似ていたので日本語で学ぶより楽でした。また、すごく面白くて優しい先生に出会い、毎回の授業が楽しかったので、リフレッシュになりました。

(留学中の1日のスケジュールについて教えてください。)(授業のある日は、朝8時ごろに起きて朝食を食べ、トラムに乗って学校に行きます。授業を受けた後にランチを友達と食べたり、一緒に寮に帰って食べたりします。午後にまた授業を受けた後にスーパーに寄って買い物をし、寮で料理をして夕食を食べます。夕食後は勉強をしたり、ジムに行って運動をしたりしました。授業のない日は、友達と電車に乗って小さな町に行って日帰りの旅行をしたりします。観光地として有名でない街にも足を運んだこともありました。チェコ人の友人の家に行って餃子をふるまったこともありました。課題前のときは、寮のstudy roomに行ったり、図書館で勉強したりします。どこもすごく勉強には良い環境でした。

自身にとって大きなチャンスになると思うので大きな一歩を踏み出してみてくださいね ^^

(留学先大学の特徴や留学生へのサポート体制等について教えてください。)(私の留学先大学には学生寮があったので、ほかの国出身のルームメイトがいたこともあったので留学の準備としてはとても良かったと思います。キッチン、シャワー、トイレは共同だったので部屋から一歩出るとたくさん人の留学生たちと出会えました。また、ヨーロッパの国は留学が盛んなのでたくさんの方から先生が多かったり、町中も英語を話せる若者がたくさんいました。留学先でも使える学生割引もたくさんありました。渡航前は不安がたてられましたが、渡航の一か月前に留学先大学のコーディネーターの人がオンラインでミニミーティングの会を開いてくれて、大学までの行き方を示すスライトを用意してくれました。なので、サポートはとも充実していると思います。

(留学先大学の良い点や改善してほしい点について教えてください。)  
延世大学 MIRAE キャンパスはのどかで自然も多く、日本で首都圏に住んでいる生徒には良い安らぎの経験になると感じます。またソウルまで電車で約40分と割と近いので、休日などはソウルに行って気晴らしに遊んだり、韓国の若者のカルチャーに触れることができ楽しかったです。気をつけなければならないポイントとして、授業がほとんど韓国語で行われることです。先生は英語でコミュニケー

# Y

(コロナ禍や現在の世界情勢下での留学準備において大変だったことや、今後留学を考えている学生に留学準備段階でのアドバイスがあれば教えてください。)  
一番不安だった点は渡航直前にコロナになってしまい、飛行機の便がキャンセルになったり、留学先の大学にもさらに連絡しなければならないことが増えたりするリスクがあることでした。幸いにも私は渡航直前にコロナになることはなかったため、トラブルなく渡航できましたが、渡航直前のPRC検査で陽性反応が出てしまうととても面倒なことになってしまうので、渡航直前は体調管理に気をつけたほうがいいと思います。また、コロナ禍でたくさん用意する書類があり、漏れがあると入国できなくなってしまうため、母にも手伝ってもらい慎重に書類を集めて何度も確認しました。家族のサポートがあると心理的にも安心だと感じました。



(留学先大学の学費や留学生へのサポート体制等について教えてください。)  
まず1週間以上海外で生活した経験が初めてだったため、文化を受け入れて対応していく力、異国の友達とスムーズに会話する能力が身についたように感じます。海外の人に話しかけることは、日本人に話しかけることより言語のハードルもそうですが、心理的なハードルが100倍以上上がります。その直前の緊張感を乗り越えてラフに話せるようになることは大変苦痛でありましたが、確実に私の今後の人生を豊かにしてくれる経験だったと感じます。デザインの側面では、グラフィックデザインに対してマスタークラスで視覚の認知の原理を学び、学部の授業で作品を制作して応用につなげることができました。その2つの側面からの視覚デザインの理解や他の学生の作品の鑑賞を通して、グラフィックデザインの自分の独自の表現方法を模索することができました。また韓国の大学の特性として課題が多かったため、スピード感を持って取り組むことスケジュール管理も以前より身についた能力であると感じます。デザインの授業は全て韓国語で行われるので、言語の壁は結構ありましたが、プレゼン形式の授業が多かったため、翻訳を活用したり、友達や先生と英語でコミュニケーションすることで意思疎通していました。留学生が元々少ないコースだったため、先生と手探りで進めてい

(留学経験を、就職活動を含めこの先どのように活かしていきたいですか。)  
留学では活発に行動する人がとても楽しい留学生活を送ることができます。また留学で身についた能動的に取り組む姿勢はどこでも活かすことができるマインドだと感じています。私は新しい環境でも臆することなく行動する力、自らトラブルを突破する力を少しでも養えたと感じているため、これからビジネスシーン、プライベート問わずに自分に真っ直ぐに挑戦できたらなと感じています。



(今後の派遣留学を希望する学生にメッセージをお願いします。)  
留学最中は毎日課題に追われ、韓国に来た意味ってなんだろう?って思った日も多かったのですが、世界各国に友達ができたりして視野が広がって帰国してから人生の価値観が大きく変わりました。何より私ならどこでも生きていけるという

ションをしてくれますが、授業は韓国語で大変でした。留学生が多い学科に行けば英語で授業を行うこともありそうでした。



ました。留学先で予想なかったトラブルだけでしたが、デザインは世界共通言語の1つであると感じ、よりデザインが好きになった留学でした。

(留学中の1日のスケジュールについて教えてください。)  
「授業のある日」「課題前」  
8:30 起床 9:00 授業開始 13:00 授業終了、お昼ご飯 14:00-18:00 課題タイム 19:00 夜ご飯 19:00-22:00 課題タイム 23:00 就寝  
とても課題が多く、また授業も週4回あったので毎日課題漬けの日々でした。その中で友達と夜ご飯を食べに行くことを日課にしていた。そこでその1日のストレスを発散するとともに韓国料理をたくさん食べてパワーをつけていました。  
「授業がない日」  
10:00 起床 11:00 移動 12:00 お昼ご飯 13:00 ソウル市内を観光 18:00 夜ご飯 19:00 ソウル市内を観光 23:00 ホテルで就寝  
休みの日で課題が多くない日は基本的にソウルに遊びに行っていました。ソウルでカフェに行ったり美術館に行ったり、ショッピングしたり、韓国の魅力はソウルにたくさん詰まっているので、何度行っても飽きずに楽しむことができました。

強い自信が生まれました。長期留学は学生のうちしかできないかけがえない体験だと思うので、先のこととはとりあえず考えずに今日の前のことを楽しんでほしいです。

(コロナ禍や現在の世界情勢下での留学準備において大変だったことや、今後留学を考えている学生に留学準備段階でのアドバイスがあれば教えてください。)  
コロナ禍の留学では入国の条件や航空券や隔離専用ホテルなどのキャンセルポリシーをしっかりと確認することが大切です。水際対策が強化されている状況下では入国に必要な書類や条件が普段よりも増えている可能性があります。しっかりと自分で調べ、確実に大丈夫という状態で渡航するのが賢明だと思います。また、航空券や保険などの予約時は返金がされるものを選ぶと良いと思います。私は渡航予定日の約1週間前に渡航中止になってしまいました。隔離専用ホテルや海外旅行保険は返金されたものの、航空券は返金されず損してしまいました。

(留学先大学の良い点や改善してほしい点について教えてください。)  
基本的に手厚い対応をしてもらいました。特に寮の選択や、学部外の授業の履修登録の手続きの際には大変お世話になりました。ただ、メールでのやり取りは返信までに時間がかかった印象です。留学が始まってからはメールよりもLINEやMessengerでのやり取りが増え、返事も早めにもらえるようになりました。



(留学先での学びについて、授業内容とともに具体的に説明してください。)  
2学期間で6授業18単位を履修しました。前期は「Introduction to Social Sciences」, 「Religion and Social Changes」, 「Introduction to Political Sciences」の3つの授業を履修しました。  
・Introduction to Social Sciences: 1年生向けの授業だったので、英語レポートの書き方や文献調査の仕方などのこれからの大学生活に必要なスキルを学んだ後、グローバルイシューについてレポート作成とプレゼンテーションを行いました。実践的な課題を通して社会科学に必要な基本的な理論を学びました。  
・Religion and Social Changes: 宗教や信仰するとは何かと言ったことから始まり、様々な観点から宗教を学びました。また、授業では特定の宗教についてインタビューや文献調査を行うプロジェクトも課され、私たちのグループはバハイ教についてまとめました。宗教の持つ強力な力を学んだと共に、初めて1つの宗教について研究したこともあり、宗教学に興味を持つきっかけになりました。  
・Introduction to Political Sciences: 政治学の基本的な知識とタイや東南アジア諸国の政治について学びました。日本の政治について聞かれる場面も多く、タイから見た日本の政治を学ぶこともできました。  
後期は Introduction to South East Asia, Lanna Society and Culture, Modern World in Everyday Life の3授業を履修しました。  
・Introduction to South East Asia: タイを中心とした東南アジアの歴史を学んだ後、東南アジアの現在の政治体制や東南アジア諸国が直面している問題について学びました。高校の世界史ではあまり深く学ばない東南アジア史を学ぶよい機会となったと共に、現在の東南アジアの立ち位置を歴史と関連付けて考える

(留学経験を、就職活動を含めこの先どのように活かしていきたいですか。)  
オンラインではありましたが、レベルの高い学生の中でもまれ様々な課題を英語でこなしたという経験はとても刺激的でしたし、留学を終えたことで自分に自信が持てました。この自信を糧に様々なことに尻込みせずに挑戦したいと思うようになりました。また、留学を通して外国語学習や国際交流が好きであることを再確認しました。将来は国際交流の楽しさを伝えたり、外国語学習のサポートをしたりするような仕事や活動ができればと思います。



(今後の派遣留学を希望する学生にメッセージをお願いします。)  
オンライン留学では疎外感、孤独感を抱きモチベーションの維持も大変でした。途中から留学の意味を見失うこともありましたが、現地の友人ができ、友人と定期的に話すことで何とか留学

# C



イメージ/チェンマイ大学より提供

ことができました。  
・Lanna Society and Culture: ランナと呼ばれるタイ北部の文化を学ぶ授業です。タイならではのものを学びたくて履修しました。タイ北部の文化だけでなく、方言なども学ぶことができ興味深かったです。  
・Modern World in Everyday Life: 現代社会が抱える様々な問題を学ぶ授業です。教育、家族、消費文化、メディア、ジェンダーなど多岐にわたって学ぶことができました。タイでどのような問題が起きているのかも知ることができました。

(留学中の1日のスケジュールについて教えてください。)  
千葉大学とチェンマイ大学の授業を並行して履修していたので、授業がない日はありませんでした。また、オンライン留学だったので、授業が少ない日・休日は留学前と同様にアルバイトをしたり、家でだらだらしてしていました。授業がある平日のスケジュール例  
8:00 起床 9:30 家を出発 1:30-13:00 チェンマイ大学授業 (Introduction to Political Science) 12:50(13:00)-14:20 千葉大学対面授業 (教授にお願いして10分遅刻するのを許可していただきました。結局チェンマイ大学の授業が早く終わることが多く、遅刻はしませんでした) 14:30-16:30 千葉大学オンデマンド授業・課題 16:30-18:00 チェンマイ大学授業 (Introduction to Social Science) 20:00 帰宅 20:00-23:00 夕飯、リラックス 23:00-1:00 だらだらしながら課題 1:00/2:00 就寝

をやり終えました。異文化を学んだり、現地の学生と交流したりするのはオンライン留学はあまり向いていませんが、学問を重視するのであれば目標を達成できる可能性はあると思います。例えば、私は千葉大学の授業とオンライン留学を並行することで習った知識が結びつき、より深い学びを得ることができました。留学に何を求めるのかをしっかりと考え、自分に合った形を選択するのが良いと思います。

※新型コロナウイルスの影響でチェンマイには行けなかったが、以前短期留学でタイのマヒドン大学に行ったことがあるので、これらの画像は以前の短期留学のもので、コロナ前の画像かつ、チェンマイ大学の画像ではないので現在の様子とは異なるかと思いますがご了承ください。

(留学先大学の学費や留学生へのサポート体制等について教えてください。)  
留学先の大変な点や改善してほしい点について教えてください。)  
延世大学 MIRAE キャンパスはのどかで自然も多く、日本で首都圏に住んでいる生徒には良い安らぎの経験になると感じます。またソウルまで電車で約40分と割と近いので、休日などはソウルに行って気晴らしに遊んだり、韓国の若者のカルチャーに触れることができ楽しかったです。気をつけなければならないポイントとして、授業がほとんど韓国語で行われることです。先生は英語でコミュニケー

# P

(コロナ禍や現在の世界情勢下での留学準備において大変だったことや、今後留学を考えている学生に留学準備段階でのアドバイスがあれば教えてください。) 留学準備で大変だったことは、情報収集です。留学するために、コロナに感染した場合どうするか、渡航先の国のコロナ対策はどうなっているかなど様々な情報が必要でした。しかし、このようにコロナ禍で今までとは異なる情報が必要だったにも拘らず、情報が不足していたため、情報収集が大変でした。不足している情報を得るために、様々な機関に連絡を取る必要がありましたが、返信が返ってこないことがほとんどで、学生 VISA を取るのが想定していた時期より遅れてしまい、渡航日を延期することになりました。その結果、授業開始日に間に合うことが出来ず、留学生活にも支障が出てしまいました。このようにならないために、今後留学を考えている学生さんは、ぜひ早めに情報収集を始めてください。ただ、早めに情報収集を始めても、先急いで飛行機の予約や寮の予約を始めると、キャンセル

(留学先大学の良い点や改善してほしい点について教えてください。) 良い点は、留学生へのサポートが充実していること、様々な学部でハイレベルな授業を受けられることなどが挙げられます。プトラマレーシア大学はマレーシア2位の大学なので、現地学生は優秀な子が多く、勉強への意欲が非常に高かったです。そのため、現地学生に追いつけるよう、自分も必死に勉強した思い出があります。さらに様々な学部があるので、自分が学びたい学部を見つけることが出



(留学先での学びについて、授業内容とともに具体的に説明してください。) 私は、留学先で、自分が研究している生物多様性と、環境問題に関する授業を取っていました。留学先での学びとしては、やはり「現地に行くからこそわかることがあるのだ」ということです。生物多様性の授業に関しては、実際にジャングルに行って、どの様な鳥がそこに生息しているのかを調査するなど、実践的かつ、生物多様性に富んでいる国だからこそできる授業を受けることが出来ました。マレーシアは国土の60%がジャングルに覆われており、固有種がたくさん生息している、生物多様性のホットスポットです。その一方で、森林伐採や汚染問題などにより、固有種が絶滅の危機に瀕している場所でもあります。そのため、生物保護に力を入れており、日本の卓上だけでは学ぶ事の出来ない、実際の被害状況や実践的な解決方法を学ぶことが出来ました。また、マレーシア内でも水質汚染やごみ問題、洪水など環境問題の被害が拡大していることが課題になっています。実際、私が日本からオンラインで授業を受けている間にも、大学の近くで洪水が発生し、大学が休校になることもありました。他にも、水道水で果物をさっと洗っただけで、下痢になるなど、インフラが十分に整備されていないなどの課題もあります。こういったことがあるという事は、授業などで学んでいましたが、実際に現地に行くことで、体験することができました。このようにマレーシアでは、より身近に環境問題を感じることができました。さらに、現地学生も環境問題を解決したいという強い意志を持っている人が多かったため、より専門的な議論をすることができ、新たな知識を得られました。

(留学経験を、就職活動を含めこの先どのように活かしていきたいですか。) 私は、大学院に進み、今やっている生物多様性に関する研究を進めていく予定です。プトラマレーシア大学で学んだ、生物多様性に関する授業や、実際にキャンプ等で体験したことを今後の研究に活かしていきたいと思います。また、私は留学生活を通して、自分には欠けていた「積極性」を身につけることが出来ました。自分から行動をしないと生きていけなかったからです。積極性は大学院での研究でも、就職活動でも、就職してから必要不可欠なものだと思います。私は、この積極性を基に、全てに興味を持って、自分から行動できる人間になりたいと思います。



(今後の派遣留学を希望する学生にメッセージをお願いします。) 今、大学3年又は4年で、長期留学に行きたいけど、就職活動や大学院試験があるから、行くか悩んでいる方には、ぜひ留学に行って欲しいです。もちろん、決定的な留学できない理由がある場合は別ですが、「他の子は就活するのに自分はしなくて良いのかな」と漠然と考えている方、あなたが今留学に行くか悩んでいる時点で、心の中では留学に行きたいと確信しているのではないのでしょうか？今そのチャンスを逃すのはもったいないと思います。よく言う「チャンスの神は前髪しかない」ってやつです。やって後悔するより、やらなくて後悔する方が辛いです。他の子と違う事をするのは勇気があるとは思いますが、自分の心に従ってみてください。後の事は後の自分に託して、今やりたいことをやってみてはどうでしょうか？



(留学中の1日のスケジュールについて教えてください。) 授業のある日 起床→近くのカフェでご飯(1食120円くらいで安い)→寮に戻り、授業準備→授業1コマ3時間…(日本の授業時間の倍でした…)×2or3コマ→授業終了後、復習→夕方、大学近くでご飯を食べる→帰宅後、次の日の授業の予習→就寝 私は前期に授業を取りすぎにいました。そのため、寝るのは夜中の2時過ぎ、起きるのは朝の7時前など、通常自分が取っている睡眠時間よりも短かったため、かなりストレスが溜まりました。ただ、後期はそれを反省して取る授業数を少なくしたので、ストレスは軽減されました。取る授業数は自分が過信せず、前期は最低限の単位を取得し、後期にそれを踏まえて授業数を調整することをお勧めします。授業のない日 休みの日は、大学内に広場があったので、友人と散歩に行ったりしていました。また、近くにショッピングモールがあるので、そこで買い出しをしたり、そこに入っているカフェやレストランでご飯を食べたりしていました。(そのショッピングモールには日本食屋さんがかなり入っているので、日本食が恋しくなったら行くのを勧めします。ただ日本で食べるよりも倍以上の値段がします…) 課題前 テスト前は、部屋に一日中引きこもって、ひたすら授業の復習をしていました。授業ととったノートを見直したり、オンデマンドだからこそできる授業の録画を見直したりして、対策を取っていました。課題はほとんどがグループワークでした。ただ、現地学生は自分よりも多くの授業を取っており、その授業のグループワークもこなさないといけないので、夜中の12時から2時にかけて Microsoft Teams や Zoom を使用して、ミーティングをすることが多々ありました。そのため、課題提出日などは睡眠不足になっていました。

# J

(コロナ禍や現在の世界情勢下での留学準備において大変だったことや、今後留学を考えている学生に留学準備段階でのアドバイスがあれば教えてください。) コロナの影響で留学に行くことができるかどうかぎりぎりまで分からなかったことが一番大変でした。3年生で行く予定だった留学を4年生まで延期し、それでも行けなかったらそのまま卒業ということになっていたため、どちらにも備えられるように留学準備と就活を並行して行わなければいけなくなってしまいました。それでかなり心に余裕がなくなっていった時期もあったので、いろんな可能性に備えて早め早めに準備をしておくことがおすすめです。また、日本や渡航先のコロナ対策が頻繁に更新される中で、自分で情報を何度も調べ、渡航に際し事前にどんな準備をする必要があるのかを調べることもかなり時間がかかりました。しかし、しっかりと理解していないと計画通りに留学を進められなくなる可能性もあり、その後大変になると思うので、十分な情報を調べておくことは必須だと思います。

(留学先大学の良い点や改善してほしい点について教えてください。) 良い点は、留学生がほとんどいないために留学生同士で固まってしまうということがなく、現地の学生に溶け込んだ学生生活が送れることや、困ったことがあっても周りの学生がとても協力的で助けてくれることです。改善してほしい点として、いつでも相談ができる体制は整えて欲しいと思います。ケニアに長期滞在するのに必要な Student Pass の

取得に際しても、その相談に行っても毎回担当者がいないと帰されたり、大学から必要な資料をお願いしてもなかなか対応してもらえなかったりして大変でした。



の医療政策の枠組みが発表され、医療の提供と開発をして地方を強化することを目標とした。プライマリ・ヘルス・ケア (PHC) は、個人、家族、地域社会にとっての最初の医療の接点であり、人々が生活する場所のできるだけ近くでヘルスケアを提供できるようにする。1978年、アルマ・アタはプライマリ・ヘルス・ケアの基本を示し、全ての人々の健康を守り促進するために至急のアクションをとる必要があると強調した。

(留学中の1日のスケジュールについて教えてください。) 基本的には6時起床24時就寝くらいでした。授業は1日に1つか2つとっていました。授業時間は1クラス3時間となっているのですが、2時間で終わることがほとんどです。教科書や資料はなくて予習はできないのですが、授業の前には前の授業の復習をして授業についていけるようにしていました。夜は友達が私の住んでいるところに来ることが多かったため、一緒に勉強をしたり、おしゃべりをしたり、ご飯を食べたりして過ごしていました。授業のない日にはショッピングが楽しみの1つだったので、近くのスーパーに行ったり、離れたところにあるショッピングモールに行ったりしていました。午後は友達と大学の中で散歩したり、自転車で乗ったりして楽しみました。私は就活も同時に進めていたので、空いている時間にはオンラインの就活イベントやセミナーに参加したり、オンライン面接を受けたりしていました。

(留学経験を、就職活動を含めこの先どのように活かしていきたいですか。) アフリカへの留学を経験して、今後はアフリカに関わる仕事ができたいと考えていました。そのため、就職活動ではアフリカビジネスに関わる企業や団体を多く受けました。面接では留学先で直面した困難を乗り越えてきた経験を評価してもらえたと感じています。その結果、アフリカ事業に強みを持つ企業から内定をもらうことができ、今後はそこで留学の経験を活かしてアフリカビジネスに取り組んでいきたいと考えています。



(今後の派遣留学を希望する学生にメッセージをお願いします。) 旅行・観光ではなく、留学だからこそ見えてくるものがたくさんあり、濃い時間を過ごすことができた実感しています。大変なこと多いですが、その経験から大きな成長につながると思います！

(留学先大学の特徴や留学生へのサポート体制等について教えてください。) 大学の特徴として、ケニアの中でも日本に対して良いイメージを持っている人が多かったです。この大学は日本の学歴を認めてくれた大学であることが影響しているかと思いますが、他の大学と比べるとそれほどサポート体制はしっかりしていないと思います。そのため、サポートしてもらえないという姿勢については、私の留学先には留学生がほとんどいないという点で、他の大学と比べるとサポート体制はしっかりしていないかと思うので、その分自由度が高く、学びたいことややりたいことが明確であれば柔軟に対応してもらえたという点だと感じています。

# P

学生交流協定校一覧 (2022.5) 33 カ国 222 協定

北米地域 12 協定	アメリカ: 6	カナダ: 6	チリ: 1	ベルギー: 1	アジア地域 138 協定	中国: 46	韓国: 23	台湾: 20	インドネシア: 14
中南米地域 12 協定	メキシコ: 9	パナマ: 2	スイス: 1	ポルトガル: 1	タイ: 18	タイ: 18	シンガポール: 1	マレーシア: 5	カンボジア: 1
欧州地域 52 協定	イギリス: 5	フランス: 8	ドイツ: 10	ハンガリー: 1	ベトナム: 6	ベトナム: 6	フィリピン: 2	インド: 2	
	フィンランド: 6	イタリア: 4	フィンランド: 6	スウェーデン: 1	トルコ: 3	トルコ: 3	ケニア: 1	ウガンダ: 1	
	ロシア: 11	スウェーデン: 1	スペイン: 2	ハンガリー: 1	オセアニア地域 3 協定	オーストラリア: 3			

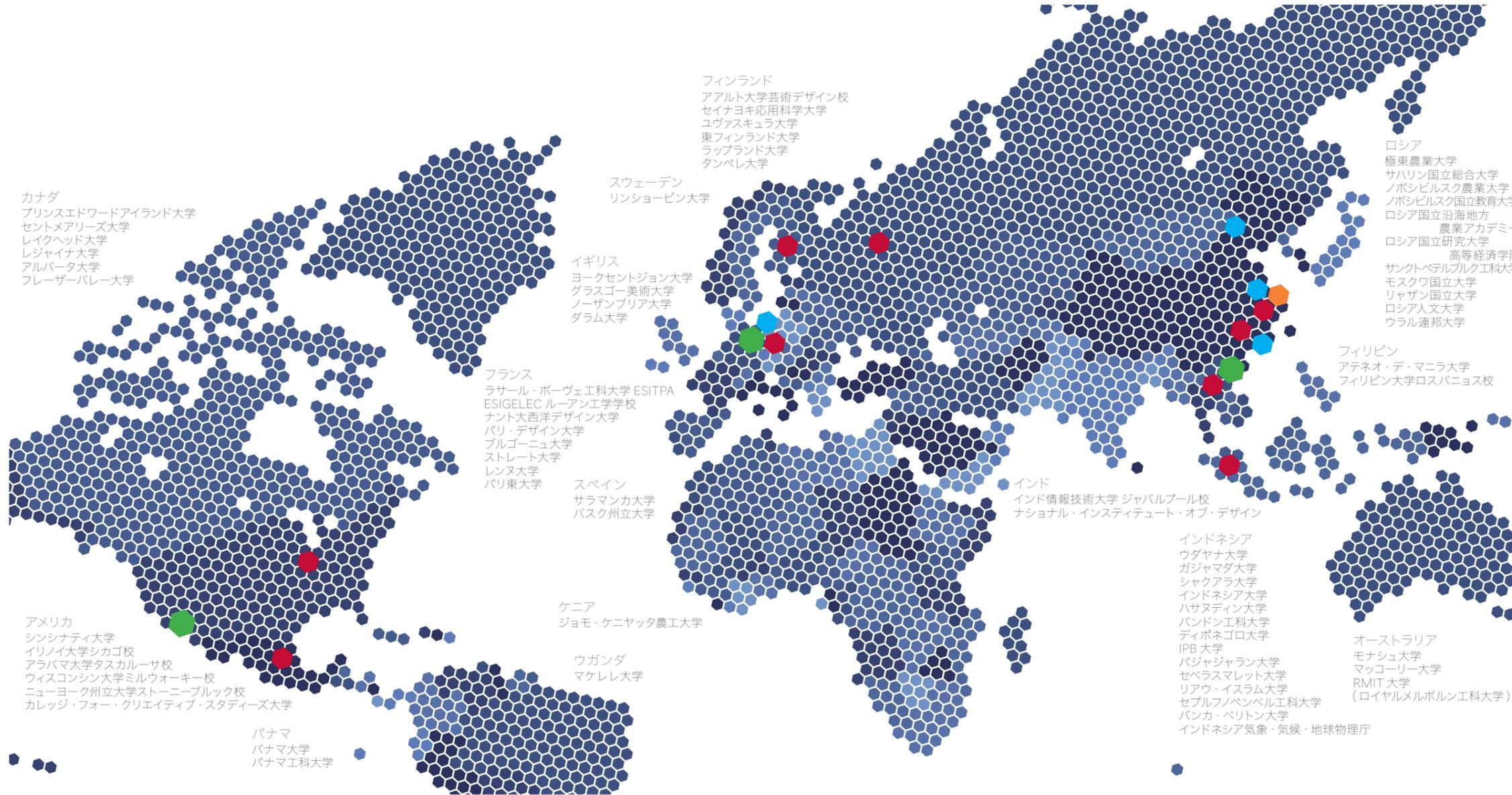
## 協定校 PARTNER UNIVERSITY

海外キャンパス  
バンコク キャンパス  
ベルリンキャンパス  
サンディエゴキャンパス

オフィス  
北京オフィス  
上海オフィス  
ホーチミンオフィス  
ベルリンオフィス

共同研究センター  
上海交通大学

IEC オフィス  
セイナヨキ応用科学大学  
ロシア人文大学  
(日本センター)  
シャリテベルリン医科大学  
上海交通大学  
浙江大学  
マヒドン大学  
インドネシア大学  
シンシナティ大学  
モンテレイ大学



アメリカ  
シンシナティ大学  
イリノイ大学シカゴ校  
アラバマ大学タスカルーサ校  
ウィスコンシン大学ミルウォーキー校  
ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校  
カレッジ・フォー・クリエイティブ・スタディーズ大学

パナマ  
パナマ大学  
パナマ工科大学

チリ  
オヒギンス大学

スイス  
ベルン応用科学大学  
ベルギー  
リエージュ大学  
ハンガリー  
デブレツェン大学

イタリア  
ミラノ工科大学 (POLIMI)  
工業デザイン大学ローマ校 (ISIA)  
IULM 大学  
ウディネ大学  
ギリシャ  
テッサロニキ・アリストテレス大学  
ポルトガル  
IADE

ドイツ  
ライプツィヒ大学  
ゲッティンゲン大学  
ハイデルベルク大学  
デュッセルドルフ大学  
ドレスデン応用科学大学  
ケルン応用科学大学 (KISSD)  
ローゼンハイム応用科学大学  
ベルリン自由大学 歴史・文化学部  
アウクスブルグ専門大学  
シュトゥットガルト工科大学

トルコ  
アクデニス大学  
イリディズ工科大学  
イスタンブール工科大学

タイ  
マヒドン大学  
カセサート大学  
チェンマイ大学  
サイアム大学  
メージョー大学  
ランシット大学  
コンケン大学  
泰日工業大学  
アジア工科大学院  
メーファールアン大学

インドネシア  
ウダヤナ大学  
ガジャマダ大学  
ジャクアラ大学  
インドネシア大学  
ハサヌディン大学  
バンドン工科大学  
ディボネゴロ大学  
IPB 大学  
パジャジャラン大学  
セベラスマレット大学  
リアウ・イスラム大学  
セプルフ・ベンベル工科大学  
バンカ・ペリトン大学  
インドネシア気象・気候・地球物理庁

カンボジア  
王立プノンペン大学  
ベトナム  
ハノイ大学  
ノンラム大学  
ホンバン国際大学  
インターナショナル大学  
ホーチミン技術師範大学  
ベトナム国家大学ハノイ校  
人文社会科学大学

中国  
浙江大学  
清華大学  
重慶大学  
蘭州大学  
江南大学  
江蘇大学  
上海大学  
東華大学  
貴州大学  
湖南大学  
湖北大学  
烟台大学  
中南大学  
魯東大学  
濟南大学  
復旦大学  
鄭州大学  
深セン技術大学  
西華師範大学  
北京理工大学  
湖南師範大学  
南京林業大学  
安徽医科大学  
上海交通大学  
新疆師範大学  
中央民族大学  
中国農業大学  
中国美術学院  
南京農業大学  
北京印刷学院  
北京印刷学院  
大連理工大学  
華東理工大学  
浙江工商大学  
浙江传媒大学  
廣州美術学院  
西北工業大学  
北京郵電大学  
北京林業大学  
長春理工大学  
西安交通大学  
天津中医学大学  
ハルビン工業大学  
南京信息工程大学  
電子科技大学  
中国農林科学院  
農業環境及び持続発展研究所  
韓国  
中央大学校  
仁川大学校  
国民大学校  
延世大学校 Mirae キャンパス  
金剛大学校  
亜細亞大学校  
釜慶大学校  
明知大学校  
全北大学校  
仁済大学校  
慶熙大学校  
江原大学校  
成均館大学校  
国立釜山大学校  
誠信女子大学校  
国立韓京大学校  
淑明女子大学校  
ソウル市立大学校  
ソウル国立大学校  
国立公州大学校  
蔚山科学技術大学校  
ソウル科学技術大学校  
朝鮮大学校  
台湾  
実践大学  
中原大学  
東海大学  
大同大学  
台北医学大学  
国立成功大学  
国立中山大学  
高雄師範大学  
国立政治大学  
国立高雄大学  
南台科技大学  
国立陽明交通大学  
文藻外語大学  
国立中央大学  
国立清華大学  
国立台湾師範大学  
国立台北教育大学  
国立台湾芸術大学  
亞洲大学  
淡江大学

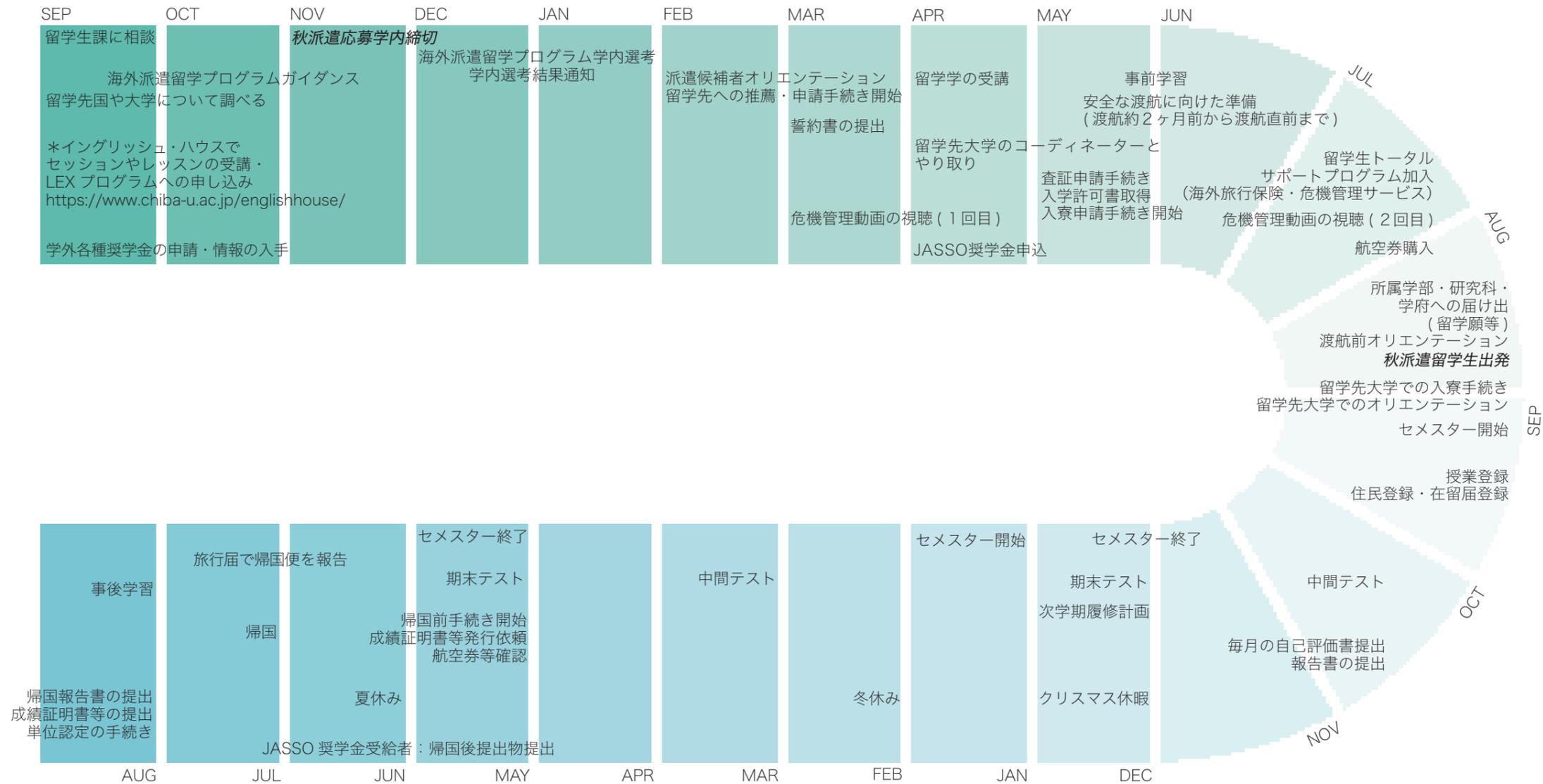
シンガポール  
シンガポール工科大学 (SUTD)  
マレーシア  
マラヤ大学  
サラワク大学  
マルメディア大学  
テナガシヨナル大学  
プトラ・マレーシア大学

# S

## 留学スケジュール（留学準備～留学後の学修）

留学の準備は1年以上前から始める必要があります。ここでは、9月に授業を開始し、1学年度留学する場合のスケジュールを提示しますので参考にしてください（留学先によって授業開始時期は異なります）。また、各種奨学金を申請するためには前もっての準備が必要ですので、十分に余裕を持って情報収集をしてください。

## スケジュール SCHEDULE



海外派遣留学プログラム面接官より：面接選考では、複数名の面接委員が留学志望者との質疑応答を通して「この学生は有意義な留学生活を送るための準備や覚悟ができていだろうか」という観点で審査します。派遣留学は語学留学ではありません。千葉大学での勉学を土台にして、さらに専門的な学修・研究を行ったり、千葉大学では開講されていない科目を留学先の大学で学んだりするプログラムです。そのため、まずは志望大学を中心に候補になるほかの大学も含めてシラバスを熟読しましょう。留学生に開講されている授業科目から自分が受講したい科目を決め、きちんと説明できるようにしておいてください。面接委員は取返して答えにくい質問をすることもありますが、その際は冷静に自分の意見を主張してください。

【問い合わせ先】  
留学生課留学支援室留学推進係  
総合学生支援センター2階 (English House の半階上)  
E-mail: kaigai-ryugaku@office.chiba-u.jp  
ホームページ: <https://www.ryugaku.chiba-u.jp/>

ホームページにて派遣留学に関する様々な情報を提供しています。派遣留学生からの生の声は「派遣留学生からのレポート」より報告書や帰国報告書を閲覧できます。学外奨学金、千葉大学主催プログラム (短期)、協定校主催プログラム (短期) 等の案内も掲載しています。また、海外留学相談の予約も受け付けていますので、お気軽にご利用ください。



